

七 聯合協同組合

(聯合協同組合本部の資料に據る)

(一) 組織的建設

ソ聯邦中央執行委員會及び人民委員會議の一九三三年八月十七日附決定によつて、聯合協同組合は舊狩獵組合の附加物から獨立的協同組合コルホーズ制度に組織替され、そして少數民族をも含む北地住民の産業・生産的要求に對し全面的に貢獻する任務を課されるに至つた。この決定によつて聯合組織の構造が定められ、個々の班の相互關係が決められた。

一九三四年一月一日現在聯合協同組合組織は決の班から成立してゐた。

聯合協同組合本部代表部	三
州地方聯合協同組合	三
管區聯合協同組合	二一
區聯合協同組合	二三九
コルホーズ	七〇〇
普通生産合同	三四三

北地に於ける住民の領域的分散性、連絡の極めて困難なる條件は、商業網に對し住民に最大限度接近すべき要求

蘇領北地事情
を表明してゐる。この見地から聯合協同組合の商業網は不完全である。(左表参照)

協同組合商業網

地 方 名	一九三一年	一九三二年	一九三三年
	商業地 點	商業地 點	商業地 點
ネネツキイ管區	四六	六八	六八
ヤマリスキイ管區	八	二七	三九
オステャコ・ウァグリスキイ管區	二七	五二	六五
サマロフスキイ區	二七	二八	四〇
ペリョソフスキイ	二六	一一	一一
シ、ルイシカルスキイ	九	二二	二一
コンディンスキイ	一六	二五	二八
スルグートスキイ	一七	二五	二四
ラリヤクスキイ	七	七	八
小 計	一一一	一四五	一七六
ナルイムスキイ管區			
コルバシフスキイ區	二五	三一	三三
アレクサンドロフスキイ	一五	一六	一六

カルガツクスキイ	三八	四二	四五
チャインスキイ	一	一	二七
クリウシエインスキイ	一	一	三七
ト、イムスキイ	一	一	四
小 計	七八	八八	一六一
東部シベリヤ地方			
タイムイルスキイ管區	二〇	二七	二八
エウ、ンキースキイ	九	一七	一一
ウイティモ・オレクミンスキイ	九	九	二
トルハンスキイ區	二四	二二	二五
イガルススキイ	三	六	六
カタングスキイ	四	四	四
小 計	六九	八〇	八四
ブリヤート蒙古			
北部バイカリスキイ區	一	一五	二二
パウトフスキイ	一	一五	二二
小 計	二	三〇	二四
七 聯合協同組合		一五一	

蘇領北地事情

極東地方				
チヨトスキイ管區	一〇	三一	三七	
コリヤクスキイ	七	二五	二八	
オホツコ・エウ・ンスキイ	一二	一八	二六	
カムチャトスカヤ州	一六	二八	二六	
其他極東地方諸區	二二	三九	九四	
小計	六七	一四一	二一一	
ヤクティヤ	七一	七八	一一〇	
合計	四六〇	六五七	八七三	

概算によれば、一ヶ所の聯合協同組合商業地點が受持つ區域は三〇〇〇平方杆(ネネツキイ管區)乃至二三、七〇〇平方杆(チヨトスキイ管區)を上下してゐる。

最緊要なる任務の一つは、商業網の最も稀薄なツンドラ地帯及び密林奥地に商業網を擴張することである。然れどもこの方針の實施は、聯合協同組合の手のみでは不可能である。何となればツンドラ地帯及び密林地帯に商業網を擴張することは、非常な入費を要する住宅及び商品倉庫大建設事業に不可分の結ばれてゐるからである。之と同じく、現在の商業網内にも商品倉庫を建設することが必要である。何となれば、大多数の個所に於て商業網は全

然作業に不向な古ぼけた半壞の舊商人の建物内に存在してゐるからである。

住民のコーペラチーフ化に關する現場報告資料によれば、北地に於ては平均六二・五%がコーペラチーフ化されこれを個々の管區及び區別にすれば次の如き指數を以つて表すことが出来る。

地 方 名	株 主 數	コーペラチーフ化率	株 券 資 本 總 額
ネネツキイ管區	一一、八四五	五一・七	四九四、八七〇
ヤマリスキイ	一一、一八〇	四五・六	三三九、八〇〇
オステヤコ・ウ・グリスキイ	三四、六〇〇	六一・八	一、四一八、九〇〇
ナルイムスキイ	五八、六四五	八四・五	一、七二一、三八〇
東部シベリヤ地方	一一、〇一〇	五〇・二	九九二、二九〇
ブリヤート蒙古	五、八八〇	六八・二	二八七、二〇〇
ヤクティヤ	二八、六六五	六六・七	九九八、九〇〇
極 東 地 方			
チヨトスキイ管區	三、一九〇	三六・八	七一、六六〇
オホツコ・エウ・ンスキイ	三、八一〇	七九・五	一四〇、七七〇
コリヤツキイ	四、二四五	五三・六	五七、六二〇
カムチャトスカヤ州	一、四八〇	七〇・八	六三五、二四〇
其他極東地方諸區	一三、六五〇	七二・〇	四九二、六五〇

七 聯合協同組合

蘇領北地事情

小計	三六、三七五	六五・四	一、三九七、九四〇
合計	二一〇、二〇〇	六二・五	七、六五一、二八〇

一五四

北地少数民族のコーベラチーフ化は著しく立ち後れてゐる。殊に遊牧民を持つ個々の區に於ては然りである。例へばヤマリスキイ管區に於ける土着民は管區全住民が四五・六%のコーベラチーフ化を遂げてゐる今日、僅かに二一・六%がコーベラチーフ化されてゐるに過ぎない。

(二) 生産コーベラチーフ化と集團化

集團化の誤謬を矯正せる豫測的總計は次の如く特徴づけられてゐる。即ち一九三一年度五七五のホルホーズと三個の初期組合とが存在してゐたのに反して、吾人は一九三二年度には三六〇個に増加せるホルホーズと僅か五〇個の初期組合と持つてゐるが、一九三三年にはホルホーズは二四四個に縮減され、初期生産組合は一九三二年に比べ二六一個に増加されるであらう。

普通生産組合と該組合内に於ける聯合共同組合系加盟戸數

(一九三二、一九三三、一九三三年度分)

地 方 名	普通組合及び該組合内の加盟戸數			組合總數に對する普通生産ホルホーズ及該ホルホーズ内に於ける加盟戸數の比率		
	一九三二年	一九三三二年	一九三三三年	一九三二年	一九三三二年	一九三三三年
ネネツキイ管區	五四五	八九七	一一七〇	三四・九七	三四・六七	四七・四五
ヤマリスキイ		三四三	一一五七		一一・〇四	四七・四三
オステャコ・ウダリスキイ	一〇九九		二六五四	四九・三〇		三五・八四
北部ナルイムスキイ	六三三	二〇六七	七六〇二	一一・五二	四八・八四	三五・七四
東部シベリヤ地方		二五二〇	七九三六		二二・三三	三七・七九
ブリヤト蒙古	六二五	一〇〇一	一〇七六	九八・四五	一四・四六	一六・五七
ヤクーツキヤ	三八七三	四三〇三	二〇〇七	二四・〇四	二八・八四	五六・〇九
極東地方			一、一八一〇			
合 計	六七四五	一、〇二八一	五、〇三四二	五七・二〇	四八・六〇	二二・三三

七 聯合協同組合

一五五

以上八地方の中一九三一年度に於て初期組合が存在してゐなかつたのは三ヶ所であつた。一九三二年度にはオステャコヴ、グリスキイ管區及び極東地方に存在しなかつた。然るに一九三三年に至つて始めて中央委員會の指令の結果、これらの組合が組織され始めた。言ふ迄もなく、これらの中多くのものは事實上組合ではあつたが、ホルホーズなる總稱の中に含まれてゐた。エウニキースキイ管區、チリンディンスキイ・ホルホーズの調査は、この場合特徴的な一例である。即ちホルホーズは北方混合組合の規約を持つてゐるが、該ホルホーズに於ては馴鹿は集團化されてなかつた。聯合協同組合から『ホルホーズ』が譲り受けた當時の集團化されたる畜群はほんご名ばかりのものであつた。『ホルホーズ員』の私有畜群が一八・四%の増加を遂げたのに反し、ホルホーズの畜群は二五・七%の減少を見た。該ホルホーズの調査員は次の如く書いてゐる。假令ホルホーズ員は北方混合組合規約を承認しても、馴鹿及び牧場を集團化してゐない又他のもつゝ適當な規約も持ち合せてゐない。

一九三二—一九三三年度に於けるホルホーズ及び該ホルホーズ内聯合協同組合系加盟戸數の發達

地 方 名	ホルホーズ及び該ホルホーズ内加盟戸數の數		ホルホーズ及び該ホルホーズ内加盟戸數の比率	
	一九三二年	一九三三年	一九三二年	一九三三年
ネネツキイ管區.....	一一一七	一六八	六九・三	六四・五
			五三・三	三七・六

ヤマリスキイ管區.....	一七三八	二七一一	一九二五	一〇〇〇	八八・六	四一・七
オステャコヴ、グリスキイ.....	二、四一八	四、三二五	四、六九七	九一・〇	九七・七	九七・〇
北部ナルイムスキイ管區.....	四、二八八	四、一八六	一、七六七	九八・五	九五・二	九二・七
東部シベリヤ地方.....	二、一八二	一、八〇六	一、三四五	〇〇・〇	八七・七	六二・八
ブリヤト蒙古.....	五九七	七、三二一	八、三三〇	九〇・六	九五・四	八八・三
ヤクティヤ.....	二、八四〇	二、九四〇	一、五〇七	八八・〇	八七・二	八二・九
極東地方.....	11	七、三九二	七、八〇九	11	〇〇・〇	八七・五
合 計.....	二一、五九七	二一、四三五	一八、六九三	九四・八	九五・四	七六・三

或る地方、例へばナルイムスキイ管區に於ては表中に示された初期組合の數は事實上誇張されてゐる。何となれば普通生産組合中には、専門化されたるホルホーズの完全なる形態である漁夫組合が全部入つてゐるからである。初期組合及びホルホーズの本質解釋上の混亂は、他の幾多の團體（極東地方、東部シベリヤ、オステャコヴ、グリスキイ管區）中にも見受けるのである。

現在聯合協同組合組織中に加入せるものは次の通りである。

七 聯合協同組合

露領北地事情

一五八

- 一、普通北方混合組合
- 二、" 馴鹿飼養業組合
- 三、" 漁夫組合
- 四、" 狩獵家組合

組合員等は馴鹿共同放牧組合に加入しながら共同放牧に托したる馴鹿については一切の所有権を保有し、全く獨立的に馴鹿生産品を現金化してゐるのである。加ふるに組合は獸醫施設、正確にして且つ合目的たる種族選別、屠殺等の方法を以つて畜群の改良を爲すべく組合員のために奔走する。組合員等は馴鹿生産品の現金化に對し個人的契約を締結する。なほ組合はこの契約によつて組合員全員を網羅する義務がある。組合はホルホーズに類似せる條件のもとに大建設事業への貸附金を得、これを以つて牧地及び中間家畜置場を建設する義務がある。組合は一定の牧場、漁場其他の附屬地を組合のために確保する。共同放牧は總會によつて定められた料金のもとに組合員共同努力によつて之を組織し、料金は共同放牧に托せる馴鹿頭數に比例して徴收する。かくて貧農及び資力なき中農は彼等が認容し得る條件にて放牧に托し、自己の生計擴大のために安堵して業に就き、自己の馴鹿を不本意ながら大馴鹿飼養業者の放牧に托さなければならぬ奴隸的條件から逃れる可能性を得るに至るのである。

普通漁夫組合は、經營諸要素が頗る普遍化され且つ普ねく普及されてゐる「野蠻人」、「地方人」の季節組合を網羅すべき義務を持つてゐる。組合は漁具の共同使用に於ける貧者及び中産者の利益を擁護し、一期間合同使用せる漁具の償却を行ひ、漁場の組織に當つて自己のために優秀なる附屬地を確保し且つ食糧及び工業生産品を獲得する

等の方法によつて幾多の特典を設け、それらの配給はホルホーズに均等せしむる。漁具の入手は信用及び質附金を利用して行ふ。かくて貧者及び日傭人夫は「地方人」組合漁業の奴隸條件より逃れる可能性を得るに至るのである。狩獵組合は個々の狩獵家が利用しつゝある獵區の合同及び狩獵業の効果を高める目的を以つて最も裕富なる新獵區を獲得することを以て自己の任務としてゐる。これらの獵區に於て組合は既存のものに合せ野獸及び野禽用の最も完備せる新捕具を準備する。努力は主として組合に於ける獵師の捕獲物處分（豫約買付契約）と同様、個人主義的とされる。

かくて各組合員は初期組合員でありながら、自己の財産に對しては所有権を保留し、自己の物質的狀態改善のため特典を得、そして現段階に於て各人の容認し得べき最も單純なる生産合同の形態を経て集團的經營實施の初步的慣習を得るのである。

(三) 北地に於けるホルホーズ建設状態

北地に於けるホルホーズ建設は最近三年間次の如き發展振りを示してゐる。

- 一九三一年には五九七個のホルホーズがあつた。その加盟戸數は一二、五一九であつた。
- 一九三二年には九三五個のホルホーズがあつた。その加盟戸數は二一、四五七であつた。
- 一九三三年には六九一個のホルホーズがあつた。その加盟戸數は一八、二五八であつた。

七 聯合協同組合

一五九

一九三二年度のホルホーズの最大増加は集團化に於ける誤謬の結果である。集團化に於ける誤謬を矯正し、一九三三年幾多の北方混合組合に初期生産組合規約を適用した結果、ホルホーズの数は減少した。最北地ツンドラ地帯に於ける集團化の割合は、密林地帯及び河川本流地域に於けるよりも過去に於て低かつたし又將來も低いであらう。

ツンドラ地帯に於ける集團化の動態（普通生産組合を除く）

年 代	ネネツキ管區		ヤマリスキイ		タイムイルスキイ		エウヅンキース		チコトスキイ	
	ホルホ	戸加	ホルホ	戸加	ホルホ	戸加	ホルホ	戸加	ホルホ	戸加
一九三一年	七三三	二〇・六	一七三	二・五	二二二	二・七	二六二	二・六	一	一
一九三二年	八二五	二四・三	二七五	九・五	二四二	一・八	三三六	三・七	四	九・三
一九三三年	六二〇	二二・三	一五二	六・六	一五二	二・〇	三〇	二・四	一七	四・五

密林地帯に於ける集團化の動態

年 代	オステャコ・ウオ		トルハンスキイ		カムチャツスカヤ州		北部ナルムスキイ	
	ホルホ	戸加	ホルホ	戸加	ホルホ	戸加	ホルホ	戸加
一九三一年	二二八	二五・七	四九	一・〇	一	一	二四二	四・八
一九三二年	二五二	四三・二	二五	六・四	一、七四八	一、七四八	一八	三・七
一九三三年	一五	四・六	三二	六・九	一、七三七	一、七三七	六二	七・七

以上結論の中から極東地方コリ、クスキイ管區は除外しなければならない。即ち該管區は一九三二年度五四のホルホーズ、一一〇九の加盟戸數及び五五%の集團化率を有してゐたが、一九三三年地方聯合協同組合情報によれば四九のホルホーズ、一二五八の加盟戸數及び集團化率六三・五%を有してゐた。この高き率はコリ、クスキイ管區の集團化の誤謬矯正が依然として完了を遂げてゐない結果である。オステャコ・ウオグリスキイ管區及びトルハンスキイ地方の個々の區に於ては一九三三年度ホルホーズの發達並に該ホルホーズ内に於ける加盟戸數の發達も見受けられる。

若し民族的構成別に集團化の率を比較するならば、土着住民間に於ける集團化の比率は著しく低くなる。例へば各管區別による土着民戸數の集團化の比率は次の如きものとなる。

管 區	一九三三年度土着住民集團化の%
ヤマリスキイ	二・五
タイムイルスキイ	六・九
トルハンスキイ	五・三
オステャコ・ウオグリスキイ	二二・三
チコトスキイ	三五・五
全北地に於けるホルホーズ内の社會層の比率は次の如き相互關係を示してゐる。	
日傭農夫	一、一七〇戸
	一一・〇%

蘇領北地事情

貧 農……………五、五三八戸
 中 農……………三、三〇七”
 労働者及び従業員……………五〇六”
 四・八”

（各區別の詳細なる資料は一六三頁表参照）
 コルホース内聯合協同組合系加盟戸数の社會的構成一覽表（資料は完全に非ず）

地方名	コルホ 1戸数	コルホ 1戸内 加盟戸数	内		中		農		労働者及び 従業員
			日備 農夫	貧	中	農	加盟 戸数	割合	
ネネツキイ管區……………	八	一〇三	一七	一〇八	六・七	三	三・八	一	
ヤマリスキイ……………	五	一〇一	三	九八	七・六	二	二・〇	一	
サマロフスキイ……………	四	一〇二	一六	八六	六・一	二	二・〇	一	
スルグトスキイ……………	三	一〇七	一七	九〇	六・一	二	二・〇	一	
コンディンスキイ……………	三	一〇七	一七	九〇	六・一	二	二・〇	一	
ペリョゾフスキイ……………	三	一〇七	一七	九〇	六・一	二	二・〇	一	
シリシカルスキイ……………	三	一〇七	一七	九〇	六・一	二	二・〇	一	
タイムイルスキイ管區……………	三	一〇七	一七	九〇	六・一	二	二・〇	一	
合計……………	三〇	一、〇三二	一、一七〇	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	

一九三三年十月一日現在コルホース建設（北部地方執行委員會、サハリンスカヤ州及びヤクート共和）
 國中央部に直接隸屬せる地方並にコミ州北方地方を除く

地方名	コルホ 1戸数	コルホ 1戸内 加盟戸数	内		中		農		労働者及び 従業員
			日備 農夫	貧	中	農	加盟 戸数	割合	
エウエンキースキイ……………	七	三三	五	二八	二・三	一	一・三	一	
ウイディモ・オレクミンス キイ……………	三	六六	八	五八	八・二	二	二・三	一	
トルハンスキイ……………	三	六六	八	五八	八・二	二	二・三	一	
ブリヤート管區……………	三	六六	八	五八	八・二	二	二・三	一	
ヤクート管區……………	三	六六	八	五八	八・二	二	二・三	一	
合計……………	三〇	一、〇三二	一、一七〇	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	

管區及び區	號番序順	加盟戸數		普通 生産者		加盟戸數		アルテ リ數		加盟戸數		加盟戸數	
		合計	内 土 清 民	合計	内 土 清 民	合計	内 土 清 民	合計	内 土 清 民	合計	内 土 清 民	合計	内 土 清 民
一 ムルマンスキイ管區……………	一	六、二五	四九	三	四	四	三	一、七五	三	三	四	一、六九	三
二 ネネツキイ……………	二	二、四〇〇	八五	一〇	三	三	四	一、七五	三	三	四	一、六九	三
三 ヤマリスキイ……………	三	二、四〇〇	八五	一〇	三	三	四	一、七五	三	三	四	一、六九	三
四 オステヤコ・ワグリスキイ……………	四	二、三〇〇	七五	七	四	四	三	一、七五	三	三	四	一、六九	三
五 ナルイムスキイ管區北部……………	五	七、七〇〇	一、三三	二	一	二	一	一、七五	一	一	一	一、七五	一
七 聯合協同組合……………	七	一、三三	一、三三	一	一	一	一	一、七五	一	一	一	一、七五	一
合計……………		一、〇三二	一、〇三二	一、一七〇	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二

蘇領北地事情

六	タイムイルスキイ管區……………	一、三六〇	一、〇〇〇	二	二四	三〇	一四	二五	二六
七	エウ・ンキースキイカ……………	一、三〇〇	八八〇	六	二二	三四	二四	二五	二六
八	ト・ルハンスキイ管區……………	一、七〇〇	六二五	八	二八	四四	三〇	三二	三三
九	イガルススキイ市ソウ・ト……………	一、七〇〇	四〇〇	二	一八	二八	二九	三〇	三一
一〇	カタンダスキイ管區……………	一、五〇〇	三〇〇	一	一〇	一八	一九	二〇	二一
一一	ウ・ディモ・オレク・ミンスキイ管區……………	一、五〇〇	六〇〇	八	二七	三七	三六	三七	三八
一二	ブリヤト・蒙古共和國北部……………	二、二二四	七七七	六	二七	三七	三七	三七	三八
一三	ヤクート共和國北西地方(一)……………	八、六六四	四三六	四	六四	六六	六九	七〇	七一
一四	ヤクート共和國北西地方(二)……………	二、五六一	一、五〇〇	三	三〇	三三	三六	三九	四二
一五	ヤクート共和國北東方(一)……………	四、四四四	一、〇五五	三	二〇	二二	二四	二六	二八
一六	ヤクート共和國北東方(二)……………	一、二二二	二〇八	二	一〇	一一	一二	一三	一四
一七	ヤクート共和國西方……………	一、〇二二	九七三	二	一〇	一一	一二	一三	一四
一八	チコトスキイ管區……………	三、〇〇〇	一、〇〇〇	二	一〇	一一	一二	一三	一四
一九	コリヤークスキイカ……………	二、八五〇	一、〇〇〇	二	一〇	一一	一二	一三	一四
二〇	オホツキイカ……………	二、〇〇〇	一、〇〇〇	二	一〇	一一	一二	一三	一四
二一	カムチャトスカヤ州……………	三、〇六六	四〇〇	一	三	三	三	三	三
二二	ニコラエフスキイ管區……………	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一	三	三	三	三	三

一六四

三	ナネイスキイ管區……………	二、一七二	一、〇〇〇	二〇	一八八	一八八	二六	一、五〇〇	八〇	四六	一、四〇〇	一、〇五〇
三	クワロ・ウルミンスキイ……………	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一	六	六	五	二四	六	六	三〇	一、〇〇〇
三	シホテ・アリンスキイ……………	五、〇〇〇	三、〇〇〇	五	六	六	三	三	三	三	三〇	一、〇〇〇
三	ジ・ルト・ラクスキイ……………	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一	七	七	二	四	三	三	三〇	一、〇〇〇
三	スグジャロ・トクスキイ……………	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一	七	七	二	四	三	三	三〇	一、〇〇〇
三	ブレインスキイ及びセレムジ ンスキイ……………	五、〇〇〇	一、〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一	一〇	一、〇〇〇
北地合計……………		六、八七二	二、七三三	三、四三	五、五五四	三、三三四	七〇〇	二、〇三三	六、六六一	一、〇三三	二、五、六七〇	一〇、一三三

註・(一) アナバルススキイ、ブルンススキイ、ウステ・ヤンススキイ、アライホフスキイ、ジガンススキイ及びウィリョイスコ・マルヒン
スキイ諸區

(二) スイルクイルスキイ、ウ・ルホヤンススキイ、アブイススキイ、モムスキイ、トムボンススキイ及びオイミ・コンスキイ諸區

(三) ニジネ・コルイムスキイ及び中部・コルイムスキイ諸區

(四) ティムプトンススキイ、トムモトスキイ、ウダルススキイ及びウステ・マインスキイ諸區

右表により明らかなる如く、中農は日備・中農階層に比べ著しく少数である。ツンドラ地方に於ては更らに顯著なる開きを見せてゐる。

日 備 農 夫	ヤマリスキイ	タイムイルス キイ	エウコンキ スキイ	シムルイシカ ルスキイ	ネネツキイ
貧 農	六・八%	一〇・八%	二・二%	七・〇%	一〇・六%
中 農	七六・六	六四・六	八三・二	七一・七	六六・七
勞働者及び従業員	一〇・四	二四・六	一三・三	一一・九	二二・八
	六・二	一	一・三	八・四	一

若し各社會階層戸数の集團化率をこれら戸数總數に比較するならば、日備・中農戸數のホルホーズ加入の割合は中農戸數に比べ遙かに高いのである。

中農のホルホーズ加入の全般的に貧弱なる原因は、貧農及び日備農夫に平行して中農をも勧誘すべき地方諸團體の事業が全然不十分な點に在る。然れどもこゝに於ては幾多の北地々方に於て戸數の階級的構成が未だ明確化されてゐないといふ事情を考慮に置く必要がある。例へば、極東地方コムソモリスキイ區に於てはムヒンノ村土着民ソウ・ウーットの四ヶ所の屯合には五八個の戸數があるが、村ソウ・ウーット議長は同地には三名の選舉權喪失者・しやあまん教僧を除いた外、全部が貧農で、日備農夫も中農も無といふ調査を公式に發表してゐるが如きはそれである。

(四) 養 鹿 業

北地に始めて馴鹿飼養ホルホーズが組織されたのは一九二九年であつた。一九二九年以降、今日迄ホルホーズ内

に集團化され且つ組合内に結合された北方混合組合及び普通生産合同の馴鹿飼養業の發達は次の數字によつて特徴づけられてゐる。即ち一九三〇年一月一日現在ホルホーズは約二千五百頭の馴鹿を所有してゐた。一九三一年一月一日現在六八の馴鹿飼養ホルホーズは五二、八〇〇頭の馴鹿を所有してゐた。現在でも聯合協同組合本部が有する最近の資料に依れば、一八九の北方混合組合及び普通生産合同は一九四、八〇〇頭を所有してゐる。左にその地方別分布を示さう。

情報入手年月日	地 方 名	馴 鹿 頭 數		ホルホーズ 及普通生 産合同合計	平 均		
		北方混合 アルテリ	普通 生産合同		アルテリ 一個に付	生産合同 一個に付	
一九三二年八月一日	ネネツキイ管區……………	一八、三三	一四、六三	三三、九六	三、〇五	一、四六	二、〇八
一九三二年五月一日	ラヤマル・グイダヤムスキイ	一、四三	七、七	三、一三	一、六三	三、三	一、一三
一九三二年一月一日	ウオステヤコ・ウァグリスキイ	一八〇	六五	一八、七四	一、六四	三、三	一、四一
一九三二年	東部シベリヤ……………	不詳	不詳	一五、六〇	不詳	不詳	三、九
一九三二年	ブリヤート蒙古……………	五	不詳	五	不詳	不詳	一
一九三二年	ヤクト共和国……………	不詳	不詳	四八、五〇	不詳	不詳	九、〇
一九三二年	極東地方……………	六五、三九	一	六五、八九	不詳	不詳	一、三〇
合 計……………		一	一	二四、八四	一	一	一、〇一

斯くの如くして一九三一—三三年以降畜群は三倍以上も増加した。

(五) コルホーズに於ける畜群の移動

コルホーズ内の統計組織貧弱なるによつて、聯合協同組合本部は頭数の移動、喪失の性質及び數量、屠殺數量等に關する完全なる資料を持たないのである。各コルホーズ別の調査資料は如何なる程度に於てもコルホーズ馴鹿飼養状態の指數たり得ない。次下掲ぐるネネツキイ・コルホーズに關する調査資料は、コルホーズの馴鹿頭数移動に關する問題を部分的に極めて不十分ながら解剖してゐるに過ぎない。

例へば、一九三二年度ネネツキイ・コルホーズ六ヶ所の馴鹿減少の數量は次の數字に現はれてゐる。

成熟馴鹿の喪失	一七・〇%
仔鹿の喪失	四六・五”
成熟馴鹿の屠殺	四・八”
仔鹿の屠殺	二九・六”

右記コルホーズに於ては畜群の自然的増加が無かつたばかりでなく、頭数減少は一〇・六%に相當してゐる。減少の原因を表に示せば次の如くである。

コルホーズ「ブノク」に於ける 成熟馴鹿 仔鹿 コルホーズ「セウアルナヤ・ヌー マ」に於ける成熟馴鹿 仔鹿	喪失合計	内		
		喪失原因不明のもの	外敵に依るもの	病死若くは衰亡
三六・五%	二六・七%	一・三%	八・五%	
四六・七”	二〇・六”	二・一”	二四・〇”	
一一・五”	一・二”	一・八”	八・五”	
三四・五”	五・〇”	二・五”	二七・〇”	

一九三三年度ネネツキイ管區コルホーズに於て行はれた調査は、一九三二年に於けるよりも遙かに優秀なる成績を齎した。各コルホーズも九%の増加を見た。

畜群移動及び頭数著減の否定的指數の主なる原因は、牧者作業隊の勞働の劣悪なる組織、畜群統計の缺如、規律及び被委託財産に對する責任觀念の缺如、聯合協同組合、聯合協同組合本部、地方及び組合側の具體的なる事務的指導の缺如である。

一九三二年初期現在畜群馴鹿一頭よりの收入、購入及び一年間に於ける集團化をネネツキイ管區の各コルホーズ別に示せば次の通りである。

コルホーズの名稱	馴鹿飼養業に依る總收入 (單位千聖)	馴鹿の總數	馴鹿一頭よりの收入 (單位聖)
ナリヤン・テニーヤ……………	三五・六	二、五八五	一三・五

羣領北地事情

一七〇

ブノーク	二七・一	二、八八五	九・四
ナリヤン・テイ	五〇・一	三、七四七	一三・四
セーワエル・ヌムゲ	三三・八	二、六五〇	一二・四
ボロハ	二八・五	二、八六七	九・九
合計	一七五・〇	一四、七三六	一一・九

一九三二年度度ネツキイ管區コルホイズ内の馴鹿飼養部門の収入増加に對し大なる役割を演じたものは、コルホイズ商業部であつた。ナリヤン・マル市、コルワ村は愚か、アルハンゲリスク市のコルホイズ市場に於てコルホイズが現金化する生産品は著しき額に達してゐる。之をコルホイズ別に示せば、

ブノーク	九、九七五	ナリヤン・テイ	九、六三三
ゲルム・ヌムゲ	三、九八七	ハルプ	二二、三五六
ナリヤン・テイ	六、五〇〇	ズワズダ	三〇・六
エディ・イレツ	七、一一七	エディ・テイ	七二・四
合計	六〇、六〇七		

賣却されたものは、主として受渡所にて選分けられた肉、下級皮革及び毛皮原料並に馴鹿原料より製造せる製品

である。

ヤマリスキイ管區に於ける一九三二年度馴鹿飼養コルホイズの収入は左表に示す通りである。
 一戸當り平均總収入額は一、五五〇留、そして商品収入は六一二留とされてゐる。
 馴鹿一頭よりの収入は一九三二年初期現在畜群に對し次の如く表示されてゐる

コルホイズの名稱	收 入(單位千留)	一九三二年一月一日現在 馴鹿の頭數	馴鹿一頭に付(單位留)
ビルトイ	二二・四	二、一一五	一〇・六
ハルプ	一三・三	一、八八〇	七・一
ハニエ	一一・七	九七〇	一二・一
ペテル	八・九	一、八二九	四・八
エディ・イレル	九・二	八、〇八八	四・四

馴鹿一頭よりの収入はネツキイ管區に於けるよりも著しく少ない。

(六) 馴鹿飼養コルホイズに於ける金融、投資及び
 大規模建設

聯合協同組合系馴鹿飼養建設に對する國庫融通資金並に組合及び住民の個人資金の支出は、一九二九—一九三二

○年から始まった。最初の三年間大部分の資金は建設中のコルホーズのための馴鹿購入に費された。それは外でもない、馴鹿を持たぬ又持つてゐても頭数の少ないツンドラ地帯の貧農及び日傭農夫がコルホーズに組織されたからである。

長期融通資金貸付総額は次の如くである。(単位千留)

	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	合計	この外組合及び住民の個人資金
ネネツキイ	不詳	不詳	一八七・五	五六・一	二四三・六	八一・二
ウラル	二五〇・〇	二四七・〇	四五〇	六〇・四	六〇二・四	二七五・八
シベリヤ	一〇〇・〇	九六・〇	二八〇・五	五三・六	五三〇・一	一四三・一
ヤクーティヤ	不詳	不詳	二二五・〇	四七・一	二七二・一	九〇・七
極東地方	一一一・〇	一六九・〇	六七五・〇	二二三・〇	一一七八・〇	三五二・〇
合計	四七一・〇	五二二・〇	一四一三・〇	四三〇・二	二八二六・二	九四三・一

投資細目表に従へば、資金は馴鹿購入、牧場、中間家畜置場、牧遺火建造、牧犬飼養の發達、發動機船及び牧者用望遠鏡の購入、獸醫施設等に投せられてゐる。

一方からは馴鹿購入に支出されたる資金、他方からは建設及び財産購入のために投せられたる資金の割合を表に示せば左の如くである。

馴鹿購入	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
馴鹿購入	八二%	六八・五%	三二%	一六%
建設及び財産購入	一八%	三一・五%	六九%	八四%

右表に依れば、コルホーズの畜群充實化のための馴鹿購入費より技術的改良費へ漸次的に資金を轉化せしめんとする聯合組合中央機關計畫部の一定の方針が窺はれる。これは融資の影響によつて自然繁殖による畜群の増加並に經營法の改良、即ち理想的なる労働組織による生産力の増進を貫徹せんとする企圖に外ならぬのである。

遺憾ながら、現地に於てはこの資金運用は極めて緩慢に行はれてゐる。一九三二年以前コルホーズ内に於ては建設事業は殆んど無かつた。資金は最善の場合で馴鹿購入に費されてゐた。目的に副はざる犯罪的資金浪費の場合もしばしばあつた。

前述せる如く、統計及び報告は語るに忍びぬ程劣悪極まるもので、それがため豫定方針の遂行も監督も不可能とされてゐる。聯合協同組合本部が有する個々の資料も融通資金の用途及び返済が極めて憂ふべき状態に在ることを指摘してゐる。

オステャコ・ヴ・グリスキイ管區の全コルホーズの貸付金は次の如くである。(単位千留)

1929年	1930年	1931年	1932年	1933年	合計
14.5	92.8	98.0	95.6	22.5	323.4

右記全期を通じコルホーズは僅か三萬三百留を返済したのみで、負債残額は二十九萬三千百留である。加ふるに右記資金は殆んど全部馴鹿の購入に投ぜられてゐる。

之と同じく、馴鹿飼養コルホーズは殆んど各地方を通じて莫大なる資金融通を受けてゐるのを見受ける。

大規模建設計畫の遂行に關しては殆んど資料は無い。例へばヤマリスキイ管區に於ては牧場五ヶ所及び中間家畜置場四ヶ所が建設され、ネネツキイ管區に於ては牧場及び狩獵根據地が建設され、東部シベリヤに於ても幾つかの牧場、垣及び蚊遣火等が設けられた。極東地方に於ては目下のところ建設に着手したことを聞かない。

大規模建設資金の外に、國家豫算に於ても馴鹿飼養業に於ける動植物保護施設に對し少額の資金が毎年支出されてゐるが、この資金の消費に關しては報告に接しない。

(七) 基幹部員

基幹部員問題は馴鹿飼養コルホーズ建設上の最弱點である。今日迄見受けた缺陷及び幾多の誤謬は、一つに最高中位及び大衆的技能を有する基幹部員の不足より生じたものであると離言することが出来る。

現在下級網全體を通じ馴鹿飼養専門家は僅か十四名に過ぎず、その内譯は、動物飼養家——四、技術家——五及び獸醫助手——五名である。

基幹部員に對する最小限要求は一九三四年度に至つて始めて實現され、四十一名を得た。その内譯は動物飼養家

——十一名、獸醫九名、技術家九名及び獸醫助手十二名である。大衆的熟練を有する基幹部員の養成及び再養成は短期講習に俟たねばならぬ。斯かる講習はオステャコウ・ウエグリスキイ及びヤマリスキイ管區、東部シベリヤ、ネネツキイ管區等に於てこれを見た。講習制度のみでは不充分で、講習の實施は往々にして現地に教授職員が缺如せることによつて阻止され勝ちである。

基幹部員問題は馴鹿飼養コルホーズに對し著しき程度財政上の負擔となつてゐる。廣大なる地域に分散され、比較的少數の馴鹿群を有するコルホーズは、高給の馴鹿飼養基幹部員の重荷を支へる實力を持たぬのである。かゝる状態を考慮に置きロシア共和國農務人民委員部は助力を吝んではならない。馴鹿飼養コルホーズ建設發達の現段階に於て獸醫施設は現地農務人民委員部機關の獸醫及び動物飼養網によつて實現されなければならない。不幸にしてこの方面に於ては今日まで殆んど何にも行はれなかつた。廣大なる北方全地域を通じ現在馴鹿飼養業全體の面倒を見るやうな地區、地方は尤より、州の動物保護・馴鹿飼養機關が一つもない。

獸醫網もこれに劣らぬ状態で、あるにはあつても、規模は全然話しにならぬ貧弱極まるものである。ロシア共和國農務人民委員部は地區動物保護及び獸醫網の建設に向つて最も決斷的なる處置を速やかに講ずる必要がある。何となれば現在これ以外には、社會主義的及び個人的部門に屬する馴鹿飼養業の獸醫施設を正確に組織する最も可能的な方法が無いからである。

(八) 狩 獵 業

狩獵業に於ける聯合協同組合の活動は次の三つの方向に於て觀察されなければならない、即ち(一)狩獵業それ自體の組織、(二)狩獵施設及び(三)調達成績である。

以上三つの根本問題に關し組合事業を分析するに當り、今日迄餘り試みられなかつた結論に到達せざるを得ない。狩獵業組織に關する正確なる事業は、狩獵組合、團體及び作業隊に適當なる獵區を割當て、その組織内に貧中農住民を加入せしむるこゝでなければならぬ。

事實、組合は狩獵業の正確なる組織に然るべき注意を拂ふこゝに、從來通り殆んど調達ばかりに夢中になつてゐる。斯うした狩獵業發達の根本的方法に對する不注意の結果、狩獵大衆は分散的な氣儘勝手なものであり、何人の管理をも受けず、往々にして所定の期間以前に狩獵を中止したり、狩獵期間以外に於て狩獵したりしてゐる。捕獲物も不充分であれば、奥地よりの捕獲物の搬出にも順調を欠き、従つて獵師の奥地への進入は無益である。狩獵家の大部分は、個人契約によつて獨立的に國營調達機關と連絡を取り、その捕獲物はコーペラチーフの手を經ずに現金化される。聯合協同組合の財政状態が貧弱な所以はこゝに在るのである。個立的狩獵法及び狩獵家大衆の分散状態に於ては、組合は捕獲物品質向上のための技術的指令、最も完備せる合理的な捕具の整備、個々の所屬地及び獵區に對する正確なる狩獵家の配置、契約履行監督等の處置を講ずるこゝの不充分なるは必然といふべきである。

北地に於ける狩獵施設は至つて不充分である。多くの地方に於ては全然未だ實行を見ない。その根本的原因は、組合の指導者及び狩獵教導機關がこの最も重要な任務に注意を怠つてゐる點にある。北地の多くの地方に於ては組合は完了し若くは完了せんじつゝある土地、河川建設に興味を持たず、狩獵施設實施のために土地、河川建設の諸資料を利用せず、往々にして資料を手許に持ち合はせぬ場合さへある。大規模建設計畫により中央が支出した狩獵施設資金は、屢々經濟的狩獵研究に關する重複的事業、専門的財政的資料の研究、即ち今日の緊急要求に全く副はぬ事業のために利用されてゐるのである。

北地諸地方が一ヘクター面積當り捕獲物を鐵道幹線地帯地方よりも三倍も五倍も少く出しつゝある今日並に來るべき五ヶ年計畫に於ける狩獵施設の任務は、如何にしてより速やかに北地獵區の總捕獲高及び商品捕獲物を増産せしめ得るか、又如何にしてより多く輸出及び住民供給用食糧品としての原料を國家に與へることが出来るかといふ問題に歸着するのである。原料は、極めて少數のもの(黑貂の如きもの)を除いては、各種類を通じ狩獵を盛んに行へる結果最近數ヶ年間に北地の獵區が捕り盡されたり且つ獸群が根絶したりするやうな危懼は些かも無い。この點自然的禁獵地さもないふべき人口稀薄な廣漠たる狩獵地を有する北地は、今後幾年も保證されてゐる理である。故に狩獵施設の方策は、主として狩獵強化に向つて展開されなければならない。こゝに特記せねばならぬこゝは、全聯邦毛皮調達合同が狩獵施設の方面に於て自己の生産狩獵研究所をシベリヤ地方北地の人口稠密な地區に開設したこゝはその方針を誤てるものといはねばならない。かゝる研究所こそは北地の未開地邊區に建設さるべきも

のである。地方機關はかゝる建設計畫を是認し、ソ聯邦労働國防會議の明白なる設定（一九三一年十月三十一日決定）に背き且つ背きつゝあるのである。

上記の事柄は狩獵捕獲物の獲得及び調達に鋭く反映し、現實的可能性に反し、その生産額を減じた。狩獵並に狩獵施設組織方面に於ける不満足なる活動の結果として、吾人は北地に於て、例へば貂、鼯鼠、兎、狐、狼等の野獸捕獲を極端に減少せしめ、又河鼠、田鼠等の春季獲物の捕獲を殆んど皆無ならしめ、更に野禽及び水鳥並に野獸肉の捕獲量を激減せしむるに至つた。輸出並に皮革原料を與ふる麝香猫並に其他様々なる獸類の狩獵發達に對し正確に設定されたる事業の缺如と組合側の示せる不十分なる興味とは、これら輸出向獸類の捕獲並に調達を貧弱ならしめた諸原因である。

最近二獵期に於ける聯合組合毛皮調達の地方別實數を表に示せば次の如くである。

一九三二年及び一九三三年度に於ける聯合協同組合の毛皮調達成績表

	一九三二年度(單位千留)	一九三三年度(單位千留)
ネネツキイ管區聯合組合	一三〇・八	一三三・〇
オビ・イルトシスカヤ州	九三五・五	一九二八・〇
オステャコ・ヴ・ダリスキイ管區	七三三・六	一三七七・八
ヤマコ・ダ・ダヤムスキイ	二〇二・九	五五〇・二

北部民族管區	三四七・一	八七〇・五
東部シベリヤ地方	一一五八・〇	一九二九・七
タイムイルスキイ管區聯合組合	四二九・四	六八七・〇
イガルススキイ區聯合組合	四六・四	六八・二
トルハンスキイ	二六五・七	三五四・四
エウ・ンキースキイ管區聯合組合	一〇五・九	三四八・七
カタングスキイ區聯合組合	五〇・〇	二〇三・四
東部オレクミンスキイ管區聯合組合	三六〇・六	二六八・〇
ブリヤート蒙古共和國	一六五・五	二二三・九
北部バイカリスキイ區聯合組合	八七・九	九一・四
バウントフスキイ	七七・六	一三三・五
ヤクーツキイ聯合組合	九五四・九	一三三〇・八
極東地方	一九六四・〇	一四八一・一
合計	五七五五・八	七九九四・五

一九三三年度毛皮調達は七百九十九萬四千五百留に達し、一九三二年に比ぶれば、三八・九%の増加を示してゐる。一九三三年度の調達價額の値上げ平均二四%(調達價額は一九三三年一月二十三日以降値上げをしたが、事實上北地に於ては餘程遅れて實施された)に注意せば調達増加は合計約一五%に過ぎぬものと看做さなければならぬ。右

記區別表により明らかなる如く、個々の區に於ける調達の増加は著しく上下してゐる。例へば、第一位には組合の最初の狩獵施設が完全に行はれたカタングスキイ區で、第二位はエウエンキースキイ管區聯合組合である。然るに極東地方、東部シベリヤ地方ウイティモ・オレクミンスキイ管區、ブリヤート蒙古自治共和國北部バイカリスキイ區に於ては捕獲及び調達の低下が生じた。後者はこれらの地方に於ける組合事業の全き貧弱さ、狩獵家大衆をして有色毛皮小獸の捕獲に轉ぜしめ、これをもつて栗鼠の不足によつて生じた計畫未遂行を補はしむる無能さに基因するのである。有色毛皮小獸狩獵業は殆んど北地全體に亘つて未發達である。それは左記トルハンスキイ、オステャコ、ヴェグリスキイ及びウイティモ・オレクミンスキイ三管區の一九三三年度調達調査資料によつて證明される。

毛皮調達數量

毛皮名稱	東部シベリヤ地方 ウイティモ・オレクミンスキイ管區		東部シベリヤ地方 トルハンスキイ管區		ウラル・オステャコ・ウグリス キイ管區	
	一九三二年	一九三三年	一九三二年	一九三三年	一九三二年	一九三三年
栗鼠	二七六、五二〇	一四二、五九二	八七、三〇九	八八、二二七	三七七、一一八	三七七、二〇三
狼	一八	七	五	一	五	五
貂	一一八	一一二	八、七八七	九、九四六	三七、二〇三	三七、二〇三
鹿	一八二	三七七	七七九	二、〇〇一	四、三一九	四、三一九
兔	四三三	一三七	二八、五六四	一五、一八一	二六、四七四	二六、四七四

山狐	あなぐま		熊		北極狐		黒貂		獾	
	一九三二年	一九三三年	一九三二年	一九三三年	一九三二年	一九三三年	一九三二年	一九三三年	一九三二年	一九三三年
山狐	四一	六四	五二一	七四五	二、九二六	二、九二六	四一	四一	四一	四一
あなぐま	一	二八	八	三	四四	四四	一	一	一	一
熊	一	九	八五	七〇	一四八	一四八	一	一	一	一
北極狐	四	一三	一八	二五	二〇八	二〇八	四	四	四	四
黒貂	一〇	四三	八九一	三七二	一、〇四九	一、〇四九	一〇	一〇	一〇	一〇
獾	三	四	三〇五	六九	五〇一	五〇一	三	三	三	三

以上獸許すべからざる現象は北地全體に亘り例外なく見受けられるのである。この原因は、組合がこの方面に向つて今日迄住民、殊に土着民の間に有色小獸捕獲の利益を喚起する方法を執らず、この狩獵のために民の需要を充分保障するの手段を講ぜず、又有色毛皮小獸捕獲の發達に資する技術的指導を行はず、この運動に地方の出版界及び輿論を抱き込まなかつたことにある。

北地に於ては春季毛皮獸捕獲についてもこれに類似の状態を見るのである。

一九三三年度春季毛皮獸調達總額（一月一日乃至十月一日、單位留）

管區	河鼠	綿栗鼠	田鼠	野鼠	合計
ネネツキイ管區	三、七九〇	一	一	一	三、七九〇

蘇領北地事情

オステャコ・ヴォグリスキイ	三八、八一九	三、一九四	三五二	一八二	四二、三六五
ナルイムスキイ	一四六、八八八	二〇、一六四	一、八五六	二、二九四*	一七一、二二二
東部シベリヤ地方	一、九八六	三、六二八	八九		六、七〇三
ブリヤート蒙古共和国	一、二八二	一七八			一、四六〇
ヤクート共和国	九九五	一、三七二	九五	七、四五八	九、九二〇
極東地方	八九九	一六、六五七		一四一	一七、七〇七
合 計	一九四、六五九	四五、二〇三	二、三九二	七、五九九	二五二、一五七

※註 この中にはやまねずみ(一、三五八羽分) 鹿鼠及びビシチーハ(14羽分) (九三五羽分) を含む。

春季毛皮獣の調達は、殊更の緊張を要せずして幾倍にも之を増産せしむる前提を有するにも拘らず、この發達は貧弱である。この可能性の好個の例は、可能性全部を利用するに至つてゐない一九三三年度北部ナルイムスキイ管區聯合協同組合の河鼠捕獲成績である。

一九三三年度野禽及び水鳥、野獸肉及び馴鹿原料調達(單位千留)

森林棲息野禽	水上棲息野禽	野 獸 肉	馴 鹿 原 料
ネツツキイ		馴鹿寢床	其他馴鹿製品
ウラル			
一九・九	二二四・八	一・九	一〇九・二
一〇四・〇		四七・八	一二五・二
			一二四・五
			一七二・六

内 譯

オステャコ・ヴォグリスキイ	八一・一	一〇七・五	四七・五	四四・八	四九・七
ヤマロ・グイダヤムスキイ	二二・九	一七・三	〇・三	八〇・三	一一・九
西部シベリヤ地方	六七・八	四五・〇	一三二・二	一九・二	
東部シベリヤ地方	三五・一	一八・九	一六〇・四	一九・二	
内 譯					
タイムイルスキイ	一一・三		二一・六		
エウ・ンキースキイ	一〇・〇		四〇・八		
オレタミンスキイ	〇・五	三・八	四六・五		
トルハンスキイ	一〇・〇	七・五	一一・三		
カタングスキイ	二・二	六・四	三八・五		
イガルカ	一・一	一・二	〇・七		
ブリヤート	一・一	二・〇	一七・一		
内 譯					
バイカリスキイ		一・〇	〇・四		
バウントフスキイ	一・一	一・〇	一六・七		
ヤクート	五・六	三三・四	四・一	二六・二	
極東地方	一三七	三三・四	三二・八	九〇・〇	
合 計	二四七・二	二二二・一	六七六・三	三六九・六	二九六・一

七 聯合協同組合

右表に示されたる如く、一九三三年度野禽調達は聯合組合につき見るに合計僅か二十四萬七千二百留、水鳥二十萬三千一百留、野獸肉六十七萬六千三百留、馴鹿原料六十六萬五千七百留に過ぎない。北地全體を通じこれら種類の莫大なる天然資源に想到する時には、調達の數量は極めて取るに足らぬもの云はざるを得ない。

一九三三年度に於ける組合の任務は、北地に於ける狩獵業發達の無方針を清算することに在る。これが爲には組合は上から下までの作業班、即ち普通生産合同及び北方混合組合、コルホーズ及びコーペラチーフに至る迄の狩獵業、狩獵施設並に調達組織の方面に亘つて自己の事業を再建しなければならない。

組合の基礎的支柱は、政府の決定（ソ聯邦労働國防會議の一九三一年十月三十一日附決定第四七七號並にソ聯邦中央執行委員會及び人民委員會議の一九三三年八月十七日附決定）に基き、組合、作業隊及び集團に一定の獵區を割當てる原則のもとに狩獵住民を組織的に狩獵業に勧誘し、且つ捕獲物及び調達を最大限度まで速やかに擴大する目標のもとに實際に即せる技術的及び指令的經濟指導を爲す方針で邁進しなければならない。

(九) 漁 業

北地漁業發達方面に於て第一次五ヶ年計畫に於て特徴的なものは、聯合協同組合魚類調達の驚くべき増加である。一九二九年度の二十二萬九千ツェントネルから漁獲は二倍以上も増加し、一九三三年度には五十一萬四千百ツェントネルに達した。

	單位 千 ツェントネル			
	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年
極東地方	二二二・〇	三二八・五	五四八・八	三〇四・二
ウラリスキイ北部	一〇四・〇	一三八・〇	一三二・七	九七・六
ナルイムスキイ北部	五六・三	六六・六	四〇・〇	三五・九
東部シベリヤ地方	二五・〇	五七・一	六〇・〇	六一・〇
ヤクト北部		三八	七・九	一一・七
ネネツキイ管區			二・五	三・七
合 計	三九七・三	五八四・〇	七九二・〇	五一四・一

個々の地方について見るならば、過去に於て餘り成績を挙げなかつた極東地方及び東部シベリヤ北部が殊に高き發達の指數を示し、オビ河水域（ナルイム、オステヤコ・ウグリスキイ及びヤマロ・グイドヤムスキイ諸管區）に於ける漁獲増加は著しく低い。

一九三三年度に於ける聯合組合の漁獲高は著しき低下を示してゐる。一九三二年度の七十九萬二千ツェントネルに對し、一九三三年は合計僅かに五十一萬四千ツェントネルを漁獲したに過ぎない。

極東地方に於ける一九三三年度の漁獲低下に決定的な影響を與へたものが、廣大なる水域を聯合協同組合の經營から他の諸團體に譲渡せること並に奇數年（鱒漁の無き年）であつたこととするならば、既に二ヶ年間（一九三二年以

降)も繼續してゐるオビ河系の漁獲減少は自ら他の原因を持つのである。不充分なる漁獲組織、漁夫基幹部員の激減である。

一九三一年以降、聯合協同組合は二ヶ所の新漁区の經營に着手した。ネネツキイ管區のネネツ人の遊牧地及びヤクト自治共和國北部で、これらの地方に於ける漁獲は過去に於て殆んど全く消費的性質を帯びてゐた。これらの地方に於ける漁獲は、一九三三年度に於て一萬五千ツェントネルに達した。因に一九三一年度は四千ツェントネル、一九三二年度は一萬ツェントネルであつた。

最近六ヶ年間に於て漁獲大増加を見るに至つたのは古くより漁業に従事してゐた地方——北地の主要なる河川本流(エニセイ、オビ、イルティシ、アムール等)の經營強化のためばかりでなく、地方住民、遊牧民をして主として第二義的水域、即ちトイム、ケーチ、ワフ、ワシガン、ボドク及びニジニャトングスカ、トルハン其他の北地を流るゝ大河川の支流、無数の湖水、溪流等の漁撈に誘引し以てその經營に參與せしめたからである。この經營水域の擴大が何を與へるかについては、次の事實によつても判斷することが出来るであらう。即ち一九三一年アムール地方に雜魚一萬四千七百ツェントネルの漁獲を與へてゐたものが、一九三三年には七萬二千六百ツェントネルに達してゐる。この雜魚漁獲増加は、一つにアムール河谷に於ける無数の湖水を經營したこゝによつて喚起されたのである。雜魚漁獲の著しき増加を吾人は東部シベリヤ地方に於ても見受ける。この地方に於ても増加は同じく嘗て經營されなかつた第二義的水域の經營によつて誘致されたのである。

これら水域の經營の程度は主要河川に於けると同様未だ極めて小規模であると言はざるを得ない。尤も主要河川に於て濫獲の域(例へばオビ河の鮭鱒族)に達したこゝろはあるかも知れぬが、それらは單に或る河川又或る魚種に限るのである。

レナ、タヤ河は吾人によつて殆んど手を染められてゐないといつてもよい。又ビヤシーナ、コルイマ、ヘタ等の大水域に於ては商品漁業は全然組織されてゐない。漁撈の程度が河川よりも遙かに劣つてゐるものに密林地帯及びツンドラ地帯の無数の湖がある。高價なる魚類資源に富んだ極東水域に於ける聯合組合の漁獲は、主として海洋へ注ぐ河川に集中されてゐる。沿岸漁撈のための海面漁區の經營は極めて少く、また鱒、鱈等の如き漁獲對象物は盛んに海上への進出を懸念してゐるが聯合組合内には沖取漁業なるものが全然組織されてゐない。

主要稼業として漁撈に従してゐる北地住民の一部は、北地住民の他のこの團體よりも逸早く集團の緒に着き、今日コルホーズ漁業は個人漁業を壓し、七〇%の割合を占めてゐる。

漁業の技術的再建は、集團化に關聯し漁業内に出現せるあらゆる可能性よりも立ち遅れてゐるこゝは疑ふ餘地がない。この技術的再建の過程が遅延せるこゝは、一方からは、漁業經營上の缺陷(一九三二年、一九三三年に於ける大規模建設は主として組合自體の資力の動員によつて補填しなければならなかつた)、他方からは、新漁撈法習得問題に於て多くの現場勞務員等が封建主義並に集團化に關聯して出現せる漁撈再建に對する廣汎なる可能性を利用するこゝの無能さ、延ては嫌惡から來てゐるのである。

然れども漁具の擴大化及び漁場の發動機化の方面に於ける或種の躍進は聯合組合内に之を見受けるのである。例へば、吾人は擴大化されたる奔流用定置網漁撈の普及を次の表に於て見るこゝが出来る。

	奔流用定置網數		
	一九三〇年	一九三一年	一九三二年
トルハンスキイ北部	七	一八	二二
ナルイムスキイ	二〇	三三	四六
ウラリスキイ	二七	三三	一五七
合計	一五四	一八二	二二五

聯合組合組織中に於ける發動機船は第一次五ヶ年計畫中一〇隻（一九二九年）から二一九隻（一九三二年）まで増加した。その地方別分布を示せば次の如くである。

ネネツキイ管區	二
ウラール	三三
極東地方	一三六
西部シベリヤ	二一
東部シベリヤ	二二

ブライーティヤ	四
ヤクーツィヤ	二

合計……………二一九

聯合協同組合コルホーズが活動してゐる廣大なる水域に於て船隊の不足を告げてゐることは言はずも知れた話である。發動機漁船配給所の組織は目下の處カムチャトカ（アワチア）及びオブスコ北部の二地方に於てのみ實現されたが、一九三三年度これら配給所は事實上活動を開始しなかつた。

漁業に於ける労働組織の領域に於て作業隊的漁撈法が未だにコルホーズ漁夫の實踐に應用される運びに至つてゐないこゝを指摘する必要がある。例へば、オステヤコ・ウダリスキイ管區に於ける一九三三年春漁期にはコルホーズ漁夫の半分が作業隊に加盟したに過ぎなかつた。作業隊自體の構成も一樣に正しく行はれてゐるこゝは云ひ難く、小隊（三—四名）の數が多い。集團編成も臨機應變的で一つの勞撈法から他の方法（例へば春期奔流定置網漁撈から夏期網漁撈へ）への移行に際して作業隊は根底から編成替が行はれるのである。

漁夫の労働報酬は大多數の地方に於ては受渡し魚類價格の六五—七〇%の額を支拂はれてゐるが、北方混合組合に於ては漁夫の労働報酬が労働日に換算される傾向を有してゐる個所も多々ある。漁夫の労働報酬の方面に於てコルホーズ内の大なる缺點は漁類の清算を延引するこゝである。漁獲物に對する清算を漁夫に爲すに當つては迅速なるべきを原則とする政府の指令は履行せられず、清算は數ヶ月、數期間（オステヤコ・ウダリスキイ、極東地方

等)後に延引されてゐる始末である。

漁場に於ける漁夫の文化生活的施設は全く不充分である。投網漁場に於ては永久的住宅は無い、天幕、暖製燐燐は大不足を告げてゐる。社會給養規則は實行されてゐない。現場には赤い隅は數へる程しか無い。

北地に於けるコルホーズ漁業組織の夥しい缺陷にも不拘、個人經營に比ぶれば、今猶遙かに高き指數を示してゐることを指摘しなければならない。例へば、オステヤコウグリスキイ管區に於ける一九三二年度のコルホーズ員漁夫の一ヶ年の漁獲高は、個人漁業に於ける一二・二ツェントネルに對し二一・三ツェントネルに達してゐる。一九三三年度第四期に於けるこの地方のコルホーズ員漁夫は六三九疋、個人漁夫は三四四疋を漁獲した。ナルイムに於ては一九三三年度コルホーズ員漁夫の一ヶ年漁獲高は一〇・八ツェントネル、個人漁夫は五・八ツェントネルであつた。

全漁獲高の半分は聯合協同組合によつて加工されてゐる。基礎的加工方法は鹽藏(七〇%)であつて、これは聯合組合の漁場位置が販路市場より極めて遠隔地なことを、輸送連絡の不備、我國河川に冷蔵冷凍設備が殆んど絶無なることに基因するのであつて、従つて多くの地方に於ては鹽魚品質が極めて最悪である。聯合組合の加工設備網は不完全であつて、その装置も原始的である。ウラリスカヤ州、ネツキイ管區及び東部シベリヤ地方一部に於ては著しき數量の魚類が漁夫自身の手によつて、山漬(ウラル地方)鹽藏てふ最も原始的なる方法によつて加工されてゐるのである。北地に於ては樽漬鹽藏が最も普及されてゐる。

聯合組合の漁業は第二次五ヶ年計畫に於て新しき大なる前進を遂げなければならない。第二次五ヶ年計畫案は、

聯合組合に對し一九三七年度約百二十萬ツェントネル、即ち一九三二年度漁獲を凌ぐこと約五〇%の漁獲任務を課してゐる。この計畫の遂行事業を解決するものは、北地水域の資源的可能性ではなくて、聯合組合の組織的物質的準備であることは明瞭である。

計畫遂行が依つて依存するところの肝要な點は、組織經濟的方面に於てコルホーズ聯合協同組合及び普通生産組合の基礎的生産作業班を然るべく強化することである。幾多の調査は、或る地方に於て漁獲計畫遂行上の立ち後れの原因となつてゐるものがコルホーズ經濟組織の拙劣さにあるといふことを吾人に教へてゐる。漁網材料、食糧等の支給を充分受け、且つ計畫遂行のために充分なる漁夫基幹部員を配屬されてゐながら、多くのコルホーズは拙劣なる労働組織、極めて貧弱なる労働規律並に漁業に對する過少評價のお蔭で、計畫遂行を兼併に歸せしめてゐる。

コルホーズ及び組合の組織的經濟的強化の方面に於ては、漁夫作業隊の強化、該集團内に於ける漁夫基幹部員の鞏化、事業に通曉せる權威ある作業部員の拔擢、作業隊に於ける労働規律の強化等に殊更注意を拂はなければならない。原料根據地開發の方面に於ける第二次五ヶ年計畫の奏功的遂行は既に經營されつゝある水域の漁業經營の強化と並んで未だ經營されぬ或は殆んど經營されぬ水域の經營の強化(タヤ、プール、ビヤシーナ、ヤクレーテヤ河、湖、殊にアムール河谷の湖等)を必要とする。そしてこの經營は、その大部分が主要河川本流から遠ざかつた上記水域の漁撈に未だ充分漁撈に誘引されてゐない土着民及び遊牧民を誘引する曉に於てのみ奏功的に行はれ得るのである。

聯合組合漁業の技術的再建——これは聯合組合第二次五ヶ年計畫遂行上の第三の決定的契機である。この再建は、

先づ第一に漁船及び輸送船隊の迅速なる發動機化に表明されなければならない。これが前提は、ソウェート發動機建設の強化の形に於て歴然たるものがある。既に一九三三年度聯合組合は最近三ヶ年間配給を見なかつた發動機(二〇〇個以上)を配給されるであらう。然れどもこれらの發動機を配給されただけでは不充分で、これらの發動機船を利用し最大限度の効果を擧げ得るが如き條件を設けることが必要である。これがためには先づ第一に、最も困難なる任務、即ちホルホーズ漁夫の中から發動機船操縦熟練者基幹部員を鍛え上げることが先決問題である。次いで修繕網の組織、豫備品、燃料等の供給を整備することが必要である。

漁業の發動機化及び機械化に基く漁撈技術そのものも再建されなければならない。極東水域、オビ灣、バイカル等に於ては各種の積極的漁撈(布着網、組立網、曳網等)が廣汎に適用されねばならない。オビ、エニセイ、レナ河に於ける遡上魚の撈獲は最大限度に集中化され且つ機械化されなければならない。

魚類加工の領域に於ては鹽藏はより完全なる加工法、即ち自然的並に人工的冷凍に代へられなければならない。これが爲には現場に冷凍庫網を組織しなければならない。水運人民委員部の前には冷凍船の建設及び經營の任務が提起されなければならない。より完全なる方法によつて罐詰に加工し得ない部分の魚類鹽藏そのものも、山漬其他幼稚なる加工法を一掃する方針のみに變更さるべきである。

以上の處置の實現は莫大なる漁業資金を必要とし、第二次五ヶ年計畫案によれば、これらの資金は聯合組合に於ては一千六百萬留以上の金額が計上されてゐる。

(一〇) 穀物栽培と野菜栽培

聯合協同組合は、ムルマンスキイ管區、コミ州、チャインスキイ及びクリウシエインスキイ區、ナルイムスキイ地方、サハリン及び極東地方ソウェートスキイ沿岸の一部を除いた北地諸地方のホルホーズ・協同組合部門の農業にも關係してゐる。ヤクテヤに於ては北方民族區に於てのみ關係してゐる。

北地に於て農業發達の本格的事業が開始されたのは最近の事に屬する。一九三二年迄聯合協同組合によつて何等の計畫的處置も講ぜられなかつた。一九三二年に至つて始めて北地農業の發達を計畫的軌道に導くべき任務が提起された。一九三二年始めてこの方面にロシア共和國農務人民委員部は注意を拂ひ、一九三三年度農業の領域に於ける聯合協同組合の計畫を確認し、その方針に向つて出資を保證した。

一九三二及び一九三三年度に於けるホルホーズ・協同組合部門の播種面積及び一九三三年度計畫は次の表に示されてゐる。

地 方 名	一九三二年		一九三三年		一九三四年
	計	行	計	行	
ネネツキイ管區	1	1	122	10	50
ウラル	740	740	1,280	1,569	2,210

七 聯合協同組合

蘇領北地事情

西部シベリヤ	四〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇二	八五五
東部シベリヤ	四二六	六五〇	五三一	五三七	八三二
ブリヤート蒙古	一	四〇〇	四	不詳	七五〇
ヤクーツキヤ	一	二〇〇	二	二、二二八	一五〇
極東地方	一、四五三	二、〇〇〇	二、二二八	二、二二八	二、八三〇
合計	四、二二〇	三、五一九	四、九八二	五、三七七	七、六七六

一九三三年及び一九三四年栽培別播種面積割當

一九三三年	野 菜	馬 鈴 薯	穀 物	農加 産工 物的	飼料球 及雜 草 根	合 計
一九三四年計畫	六四三	一、二一九	三、二一一	一三四	一七〇	五、三七七
	一、〇九九	一、八九二	三、八七〇	三〇五	五一	七、六七七

一九三四年度野菜栽培（七二%）及び馬鈴薯栽培（五五%）の増加に對し穀物栽培は最少の増加（二八%）を示してゐる。この外に乳産品農場及びホルホーズの集團化されたる畜群のために多汁質の飼料を供給する必要から球根飼料（二〇%）及び漁業のために大なる意義を有する加工的農産物も大增産を示してゐる。

極東地方ナナイスキイ區は穀物二〇——二二ツェントネル（新耕地に於て）の收穫を得るであらう。

馬鈴薯は二〇〇ツェントネル迄増加される。

クウロ・ウルミースキイ區に於ても馬鈴薯は三五〇ツェントネル迄増加される。

ウラル州オステャコ・ウグリスキイ管區に於ては一九三三年度收穫高は次の數字に表はれてゐる。

春 蒔 穀 物	一〇	ツェントネル
多 蒔 ”	一〇——一一	”
馬 鈴 薯	九〇——一〇〇	”
野 菜 平 均	四〇——五〇	”

この外に、一九三三年度聯合協同組合はウラル、西部シベリヤに於て充分の馬鈴薯種子を現地に所有し、その中少量が極東地方及び東部シベリヤへ搬出さるゝに至つた。いふ狀況を特記する必要がある。種子の搬出はブリヤート蒙古及びヤクーツキヤにもなされた。

穀物栽培方面に於ける一九三三年度のための豫備種子倉庫の組織は、馬鈴薯に於けるよりも小規模であるが、ウラル、西部及び東部シベリヤ、ブリヤート蒙古及極東地方等に於て見受けた。ホルホーズ・協同組合部門の一九三四年度穀物及び馬鈴薯栽培播種面積は、殆んそ全部現地に於て組織された一九三三年度收穫中よりの貯藏種子によつて保證されてゐる。少量の種子は東部シベリヤ、ヤクーツキヤ及び極東のために搬出する、こゝが必要であらう。

聯合協同組合が經營してゐる北地ホルホーズの温室温床栽培は温床建設の方針に向つて展開され、一九三三年温床は不完全なる調査資料によれば、三八二二坪を算へ、一九三四年度には更に五六五〇坪、合計九四七五坪が造ら

れる豫定である。

温床經營の發達は毎年硝子の不足によつて停頓勝ちであつた。或る個所に於ては斃消し硝子が代用されてゐる。が、これは言ふまでもなく作業の効果を低下せしめた。

一九三三年、人民委員會議附屬建築材料分配委員會が全地方豫備品として温床建設のために硝子を分與したが、組合はこれを受領しなかつた。北地に於ける地方機關は硝子を與へなかつた。

北地に於ける播種面積の強行的増加の必要性は、掃根作業及び該作業のため多數の勞働力の配置を必要とする。北地に於ける後者の有限的可能性は農業及び掃根作業の機械化の必要性を提起してゐる。

この方面に於てなされたことは貧弱である。僅かに二ヶ所の機械トラクター配給所（オステャコ・ウダグリスキイ管區及びカムチャトカ）が活動してゐるに過ぎない。

極地向掃根機械の搬入が不足を告げてゐるため多くの個所に於ては掃根作業を人手で行つてゐる。ウラル、西部シベリヤ及び極東地方に於てはコルホーズ内に機械・馬力草刈機配給所が組織されてゐる。

聯合協同組合第二次五ヶ年計畫案中には將來農業及び掃根作業機械化の必要性が指摘されてゐる。五ヶ年計畫末期にはソ聯邦農務人民委員部の方針に従ひ聯合組合擔當區域に二十四ヶ所の機械トラクター配給所、性能三六〇〇馬力が組織される豫定である。

農業技術の領域に於て北地農業は未だ低き水準にあることを指摘しなければならぬ。任民が農業經營に慣習を持たぬことは本問題に於ける最大難問題である。それ故に北地に於ける農業技術者基幹部員の意義は殊に絶大で

ある。然るに組合に於ける基幹部員は少數であつて、組合全體を通じ吾人は僅かに十五名の専門家を有するに過ぎない。

(一) 畜 産 業

聯合協同組合コルホーズ及び普通生産合同の一九三三年末期現在家畜總頭数は左表に示す如くである。

	大角家 畜頭數合計	内 牛	馬	豚	羊
ネネツキイ管區.....	四、〇〇〇	二、一〇〇	一、三〇〇	五〇	一
ヤマリスキイ.....	三三三	二〇〇	五〇	一	一
オステャコ・ウダグリスキイ.....	四、五六九	二、一〇〇	三、九五〇	三三五	二、一〇〇
北部ナルイムスキイ.....	九、〇四九	四、〇〇〇	四、四〇〇	一、七五〇	二、六七〇
東部シベリヤ地方.....	四、〇五〇	二、〇三〇	三、五〇〇	三四二	二〇〇
北部バイカリスキイ地方.....	九三三	四〇〇	四六一	八〇	六二
パウトフスキイ.....	一、二二〇	四五〇	五五一	!	五五二
ヤクーツキイ.....	一、七〇三	八五〇	一、五三〇	六〇	!
極東地方.....	一、九〇〇	一、六〇〇	二、七四〇	一、四五〇	七一〇
合 計.....	二七、六五〇	一四、三三〇	一八、四八二	四、〇六七	六、二九四

右表大有角家畜中四〇六三頭は一九三三年に乳産品農場畜群中に合同された。此種乳産品農場はホルホーズ内に三五あつた。

地方別乳産品農場分布ミ一九三三年度計畫は左の通りである。

	一九三三年		一九三三年度計畫	
	乳産品農場頭數	頭數	乳産品農場頭數	頭數
ネネツキイ管區	三	三九〇	一	四〇
ヤマリスキイ	一	八〇	一	五〇
オコチャコウ・ウ・グリスキイ	四	五〇〇	二	一〇〇
ナルイムスキイ	一	一、三五一	二	一〇〇
東部シベリヤ	一	一、〇〇〇	二	八〇
北部バイカル	一	八〇	一	五〇
バウントフスキイ	一	一	一	三〇
ヤク・イ・ティヤ	一	五〇	一	一五〇
極東地方	一	五二二	三	一五〇
合計	三五	四、〇六三	一六	七五〇

農産物調達

名稱	噸數	金額(千留)	名稱	噸數	金額(千留)
穀物栽培	四、四一五〇	一九八	乾草	一〇、四四七・八	五一六・八
野菜	二二八・二	五三・〇	亞麻及び大麻纖維	八・四	三・二

畜産業生産品

名稱	數量(噸)	金額(千留)	名稱	數量(千個)	金額(千留)
乳製品	三、七三三・六	四二五・五	家畜油	二〇三・七	一九九・四
獸油	三七・七	一〇一・三	雞卵	三・四	二二・二
家畜毛	一〇一・三	二七・一	剛毛及馬毛	一・二	三・八〇
各種畜皮	二四・三	六・六	各種畜革	一五、四九七・〇	五〇・四
大小家畜	八七・〇	一五、四九七・〇	各種畜革	八七・〇	一一・五

農産物調達問題に就いて特に一言する必要がある。穀物の義務的納入法は現在聯合組合のこの地方にも實踐上普及されてゐない。然るに畜産業生産品は三つの地方（ネネツキイ、オステャコウ、ウグリスキイ及びナルイム）に於ては地方執行委員會の決議によつて牛乳（三地方に於て）及び肉（ナルイムスキイ管區に於て）の義務的納入制度が存在してゐる。

その他の諸地方に於て聯合協同組合は或は豫約買付若くは普通調達の手續きを以て農産物の調達を行つてゐる。

一九三三年初期、北方委員會の發起によりロシア共和國農務人民委員部は農業の發達を懲慙する目的を以つて中央執行委員會決議案——北地諸地方の義務的農産物納入を一九三七年迄免除する件——を作成した。現地に於て調達さるべき農産物は搬出計畫中に算入されず、労働者、従業員及び生産に従事する住民の榮養改善並に北地諸地方の生産的需の爲めに提供されるのである。假りに諸法律が採決されるにすれば、疑ひも無く北地農業の發達に更に大衝動を與へるであらう。

將來農業の發達方面に於て大なる意義を演ずるものは農産物の價格である。この問題は北地に於ては調整されてゐない。或る個所に於ては全地方のために定められた共通價格が義務的なものに看做されてゐるが、又或る所では假りにそれらが北地管區及び區機關によつて定めらるゝにしても、農業地方の價格に均等せしめんとする傾向を持つてゐる。斯かる状態に於ては農業に従事するものゝ勞賃は北地の他の職業——漁業、狩獵業に働くものよりも著しく低く、將來農業の發達に對する衝動は決してならぬのである。同時に、搬出農産物の原價（噸の運賃二〇

〇留乃至一、〇〇〇留であり、又輸送中の廢棄率も大きい）は、常に高價なものとなり、その結果北地諸地方の地元農産物價格を繁華な地方に於ける價格よりも遙かに高く設定することになるのである。近き將來、獨自の糧食根據地を北地に設置し且つ農業の發達を刺戟する必要を考慮に置き、吾人は價格問題を講究し且つ農業經營による収入が他の職業の収入よりも低からず、それにより將來北地農業を發達せしむる刺戟を保存する目的を以つて現地に指令を與ふことが必要であるを考へる。

この外、北地住民の生産的目的を有する特殊給與を爲すことに關聯して、農業の發達は勞力及び農産物が商品化されぬことによつて阻止され得るのである。この問題を整調する目的を以つて農産物商品化の標準を豫め定め且つこの基金を以て商品を購入することが必要である。加ふるに準備作業の方面（土地改良、掃根作業、農場建設等）は、これが實施の結果、後年農産物が得らるゝのであるから、農産物に對しては、作業の大きさに基いて所定の標準に従ひ商品化されなければならない。

(二) 家内手工業

聯合協同組合活動地域に於ける家内手工業の基礎的形態は、漁業の需要に應ずる手工業——樽、風袋、函板、籠の製造、漁舟、網、船臺の製造等であり、地方住民の需要に應ずる家事用及び一般的消費用品手工業——運輸用品（犬及び馴鹿橋、橋、馬車、車輪等）、家具（卓子、椅子、箱、櫃）、衣類及び履物の裁縫、毛皮衣類、髪飾、天幕用

蓋皮等である。加ふるに北地諸地方に於ては木材化学工業（樹脂、木タール、榎松油）が漁業そのものも必要のため、又鐵道幹線地方への搬出のために著しき發達を遂げてゐる。殊に輸入品對策としての人工樟腦の製造に用ひられる榎松油の搬出は盛んである。建築材料、殊に煉瓦製造、鍛冶工品、獸骨及び牙の藝術的加工品製造、食糧品製造の發達は小規模である。家内手工業が最も發達してゐるのはナルイムスキイ管區、オビ・イルトシスカヤ州、極東地方及び東部シベリヤである。

家内手工業に關する資料は、ネネツキイ管區及びヤクーツキヤは元より多くの北地遠隔地方に於てこれを缺いてゐる。一九三二及び一九三三年度聯合組合の主要家内工業品の買付け及び一九三四年度計畫は次の表に示されてゐる。

(單位千留)

手工業名稱	一九三二年	一九三三年	一九三四年計畫
(一) 櫛板其他木材加工品	一、三六〇・一	一、五二六・二	二、一五〇・〇
(二) 木材化學	一一八・〇	二五三・六	四八〇・〇
(三) 裁縫	三〇二・四	七〇二・九	五五一・〇
(四) 煉瓦・陶器	一一八・六	一一一・一	一七五・〇
(五) 鍛冶	四五・六	二二・一	一五〇・〇
(六) 藝術	一三八・五	四九・五	一六〇・〇

一九三二年度聯合組合活動地方別—ネネツキイ管區及びヤクーツキヤ共和國諸地方を除く

地方	一九三二年		一九三三年		一九三四年計畫	
	製品高 (單位千留)	企業數	製品高 (單位千留)	企業數	製品高 (單位千留)	企業數
極東地方	一、三六〇・一	一一八・〇	一、五二六・二	二五三・六	二、一五〇・〇	四八〇・〇
蒙古	三〇二・四	一一八・六	七〇二・九	一一一・一	一七五・〇	一五〇・〇
北地	一一八・六	四五・六	二二・一	一五〇・〇	一七五・〇	一五〇・〇
合計	一、七八一・〇	二五二・〇	一、九二九・一	四二二・三	四、〇七五・〇	一、〇六〇・〇

蓋皮等である。加ふるに北地諸地方に於ては林材化学工業（樹脂、木タール、榎松油）が漁業そのもの、需要のため、又鐵道幹線地方への搬出のために著しき發達を遂げてゐる。殊に輸入品對策としての人工橡膠の製造に用ひられる榎松油の搬出は盛んである。建築材料、殊に煉瓦製造、鍛冶工品、獸骨及び牙の藝術的加工品製造、食糧品製造の發達は小規模である。家内手工業が最も發達してゐるのはナルイムスキイ管區、オビ・イルトシスカヤ州、極東地方及び東部シベリヤである。

家内手工業に關する資料は、ネネツキイ管區及びヤクートヤは元より多くの北地遠隔地方に於てこれを缺いてゐる。一九三二及び一九三三年度聯合組合の主要家内工業品の買付け及び一九三三年度計畫は次の表に示されてゐる。

(單位千留)

手工業名稱	一九三二年	一九三三年	一九三四年計畫
(一) 榎板其他木材加工品	一、三六〇・一	一、五二六・二	二、一五〇・〇
(二) 木材化學	二一八・〇	二五三・六	四八〇・〇
(三) 靛藍	三〇二・四	七〇二・九	五五一・〇
(四) 煉瓦陶器	二二八・六	一一一・一	一七五・〇
	四五・六	一一一・一	一五〇・〇
	三三八・五	四九・五	一六〇・〇



家内手工業名稱・従業者数及び手工業品製造高

(一九三二及び一九三三年度聯合協同組合活動地方別・ネネツキイ管區及びヤクート共和国諸地方を除く)

工業名稱	オビ・イルトシスカヤ州		ナルイムスキイ管區		東部シベリヤ地方		ブリヤート蒙古		極東地方		合計	
	企業数	従業者数	企業数	従業者数	企業数	従業者数	企業数	従業者数	企業数	従業者数	企業数	従業者数
榎板製造業	二二四	四、四七七	一、一〇〇	一、七〇〇	一、一三三	一、三三三	一、一三三	一、三三三	一、一三三	一、三三三	一、一三三	一、三三三
其他木材加工業	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	一〇〇
木材化學工業	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇
靛藍業	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇
煉瓦陶器業	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇
煉瓦陶器業	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇
鍛冶工業	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇
藝術品工業	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇
食糧嗜好品工業	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇
編織業	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇
製糖業	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇
其他	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇	一	一〇
合計	二二四	四、四七七	一、一〇〇	一、七〇〇	一、一三三	一、三三三	一、一三三	一、三三三	一、一三三	一、三三三	一、一三三	一、三三三

(七) 食糧嗜好品.....	三六・三	三一・四	一八〇・〇
(八) 編網及び編糸.....	1		四〇・〇
(九) 果實エッキス.....	1		六五・〇
(一〇) 製鹽.....	1	二〇六・五	八〇・〇
(一一) 廢物利用.....	1		五五・〇
(一二) 其他.....			一〇・〇
合 計.....	二、二四〇・四	二、九一三・三	三、九九六・〇

北地諸地方に於ける家内工業は、中央よりの金屬、革皮半製品及び砂糖の供給を必要とする鍛冶、裁縫、履物及び果類エッキス等を除き主として地方原料に基いて發達しつつある。

北地貨物輸送の困難なる條件は、家内工業製品の生産をより廣汎なる規模に展開せしむることを許さない。然るに南部地方の聯合協會組合、例へばナルイムスキイ管區の如きは管區領外に樽板、浮子、柳製槍の如き製品さへをも多數搬出する可能性を持つてゐる。

一九三四年全地方を通じ總額四百十七萬六千留の家内工業製品調達が聯合組合によつて計畫され、三十萬留の投資のもに一四〇の新企業組織が豫定されてゐる。

(一三) 配 給

豫備商品委員會の一九三三年五月二十九日附決定により北地住民、即ち國營、コーペラチーフ及び社會企業に従事し一定の給與を受けてゐる労働者及び従事員(家族共)等は固定標準により配給され、漁業、狩獵業及び家内工業農業等に携はる他の住民は引渡し生産品(毛皮、魚類等)及び農産物並に他の生産的作業(車馬輸送、郵便運搬等)に對する調達獎勵規定に基いて配給される。

食糧品及び工業品並に生産用配給貨物搬入の動態は左表によつて窺ふことが出来る。(工業地發送値段、單位千留)

號番 順序	地 方 名	實 際 的 搬 入		備 考
		三二—三三年	三四—三五年	
一	ネネツキイ管區	二、二八一	五、〇〇〇	極東地方に於ける搬入資料は不完全である、アコ會社の搬入に關する資料は無い。こゝに引用した極東地方の數字は概算のものである。
二	ウラリスキイ州	一一、三五〇	一三、八二二	
三	西部シベリヤ地方	一一、八三〇	八、三六五	
四	東部 "	七、九七九	一〇、〇三二	
五	ブリヤート蒙古	二、三八三	三、二一九	
六	ヤクーツキヤ	三、一〇八	五、八一〇	
七	極東地方	一三、〇〇〇	二〇、二五四	

内 譯	合 計
カムチャトカ	二、九〇二
合 計	五二、九三一
	六六〇、九九二

斯くの如く、假りに一九三二年の搬入を一〇〇とすれば、一九三四—三五年度の搬入は一四六に相當するであらう。

然しながら搬入の増加にも拘らず、商品全體を通じ商品目録は北地遊牧民側の要望せる特殊の需要に全く満足を與へてゐない。

同時に組合が調達計畫の遂行に絶大なる意義を有する様々な商品の過少配給を受けてゐることを指摘しなければならぬ。例へば、専門的漁夫用履物、履物修繕用皮革原料、防水着等である。

聯合組合が漁業を保證するために要する皮製沼澤用靴は極東地方一地方だけでも一〇、〇〇〇足を算へるのである。漁夫供給用皮靴の支給方に關する吾人の請願に對し豫備商品委員會から否定的な回答に接したる以上、吾人は護謨靴をもつて皮靴に代用する處置を講じなければならない。

北地への商品の搬入、これが包装及び再包装は風袋材料(硬軟質)有無の問題に直接關係を有するのである。

風袋の状態は不足を告げてゐる。組合の風袋(袋、鐵製樽等)に對する要求は大部分容れられずにある。風袋の不足及び之が百パーセントの返送不履行は、穀物調達合同及び其他組合との一般契約に提起され如く、組合を

ば困窮状態に陥れてゐるのであつて、吾人はソ聯邦人民委員會附屬豫備商品委員會に風袋問題の再審査に関する問題を提起したのである。

荷卸期間に制限ある北地への貨物配送の特殊性は、聯合組合本部及び曩には舊狩獵組合本部よりの政府及び整調機關宛報告書中に何回もなく指摘されたのである。

主要なる重量食糧品（麥粉、碾割、砂糖）の時期遅れ着荷は、貨物の運搬停止、道中に於ける凍結並にそれが原因となつて北地諸地方に配給不足を來すことになるのである。

上記貨物の運搬は水運に密接に結ばれ、最初の（春季の）出水と共に奥地へ配送されなければならぬものである。昨年アルハンゲリヌクから海路北氷洋（大北洋航路）を経て行はれた初めての貨物輸送経験は極めて良好な結果を齎らした——聯合組合の貨物はテイクシ灣及びレナ河に沿ひヤクテイヤ迄運搬された。

本年ヤクテイヤ聯合組合は、本年度全ヤクテイヤ商業團體向配定總重量四、四〇〇噸中一、五〇〇噸の各種貨物を北洋航路を経て入手しなければならない。

北地諸地方に於ける捕獲業及び製造業全部の急激なる發達、自然的増加、殊に移住民による人口の増加、年々激増しつつある毛皮及び魚類の調達、住民の購買力の増加等は左表に示された通り年々増額されつつある小賣商賣にその反映を見るのである。

商 品 取 引 額（小賣額、單位千噸）

號 番 序 順	地 方 名	實 際 取 引 額		計 一 九 三 四 年 度	一 九 三 二 年 度 對 於 一 九 三 三 年 度
		一 九 三 二 年	一 九 三 三 年		
一	ネネツキイ管區	五、六七四・〇	七、五〇一・〇	七、六〇七・〇	1
二	ウラリスキイ州	一一、五八〇・〇	二二、六八五・〇	二五、四七二・〇	1
三	西部シベリヤ地方	一一、六一七・〇	一五、四〇〇・〇	一五、五一四・〇	1
四	東部シベリヤ地方	一一、二〇〇・〇	一四、七二一・五	一六、五三〇・〇	1
五	ブリヤート蒙古	四、一〇〇・〇	四、六五〇・〇	四四、五七〇・〇	1
六	ヤクテイヤ	六、一八六・〇	一〇、〇七五・〇	一一、〇三〇・〇	1
七	極東地方	二九、〇〇〇・〇	三三、〇三三・〇	三五、二〇一・〇	1
	内譯 カムチャトカ	1	1	1	1
	合 計	九二、三六二・〇	一〇七、〇五八	一一五、八一・〇	1

備考 一九三三年度取引額は同年三期間に於ける實際額と一九三三年二期の計畫とを取扱つた。極東地方に於けるものは計畫數字を示すものである。

北地諸地方に於て（カムチ、トカを除く）聯合組合の配給を受けつゝある勞賃協定を結べる住民員數

順序 番号	地 方 名	一 九 三 三 年			一 九 三 四 年		
		勞 働 者	其 他	合 計	勞 働 者	其 他	合 計
一	ネネツキイ管區……………	四、〇二五	四、二七五	八、三〇〇	五、七二〇	三、九〇〇	九、六二〇
二	ウラリスカヤ州……………	一六、〇五九	二五、七九七	四一、八五六	一四、四五八	二八、一七九	四二、六三七
三	西部シベリヤ地方……………	四、五〇〇	一一、〇〇〇	一五、五〇〇	四、二八〇	一一、六〇〇	一五、五八〇
四	東部シベリヤ地方……………	四、五〇〇	七、〇〇〇	一一、五〇〇	五、〇三〇	五、六五〇	一一、六八〇
五	ブリヤート蒙古……………	一、二五〇	一、七五〇	三、〇〇〇	一、二七〇	一、八八〇	三、一五〇
六	ヤクートヤ……………	三、八〇〇	四、〇〇〇	七、八〇〇	三、〇〇〇	四、〇〇〇	七、〇〇〇
七	極東地方(大陸)……………	一、〇〇〇	一、二〇〇	二、二〇〇	四、二〇〇	六、〇〇〇	一〇、二〇〇
合 計	……………	三五、二三四	五五、〇三二	九〇、一五六	三七、九五八	六二、二〇九	一〇〇、一六七

右商品取引額は中央集權化されたる豫備品、即ち十二の計畫商品（木綿、絲、小布片等）及び整調商品の販賣も含まれてゐる。

計畫外購買率は可成り著しく、全小賣取引の約一五—二〇%に達してゐる。

これらは、主として肉類、魚類、生野菜、牛乳其他の農村生産物並に中央より少量を供給され且つ一部地方市場に於て購入せる魚獸脂肪をもつて補充されつゝある脂肪を指すのである。

八 北地の商業網

ア・ミハリョフ

國家が裕富なる商業根據地、店舗網をもつて覆はれるやうにすることが肝要である。スターリン

（全聯邦共產黨第十七回大會に於ける報告中より）

ソウニト權力發生以來、絶えず成長しつゝある北地諸地方への搬入豫備商品の増加、個人商人の商取引の驅逐、住民の文化的及び物質的需要の増加、商業と住民との接觸の任務等は、擧げて北地商業網の眞摯なる發展及び擴大を必要とした。

一九二六年以降、この方面に於ける活動の結果、吾人は北地諸地方に於て次の數字に現はれた商業網の著しき發達を見たのである。

一九二六年度商業地點は全部で六七七ヶ所であつた。

一九二八—九年度商業地點は全部で一〇五九ヶ所（ヤクートヤ中央地方を除く）であつた。

一九三四年一月一日には商業地點は二七二ヶ所になつた。

八 北地の商業網

一九三四年一月一日現在北地商業網の團體別配置(※)は次の如くである。

※ 國家建設事務局極東支部、グラーグ及び中央探金業トラストの商業網に關する資料は本表並に以下掲ぐるところの表中には含まない。

聯合協同組合	九二三ヶ所
消費組合	八一四
産業組合	七
全聯邦毛皮業合同	五七一
カムチャトカ株式会社	三一
ヤクート配給商業	一一
カムチャトカ株式会社漁業トラスト	八
レニングラート州商業	六
サハリン配給トラスト	三
畜産調達合同	三
トルグシン	一九
林務人民委員部	二二六
漁撈及び魚工業中央管理局	二九
北洋船路中央管理局	一五
海獸捕獲業トラスト	一二
其他團體名不明のもの	四三

一九二六年以前の北地商業網は、國營外國貿易機關、様々なる形態のコーペラーチヤ、露英原料貿易會社(ラソ)『スイリョー』、ソ聯邦皮革工業シンヂケート及び其他企業の商業地點から成立つてゐた。

一九二八—一九二九年には國營外國貿易企業網は著しき變化を遂げた。『ラソ』及び『スイリョー』とロシア共和國營外國貿易廳とを合同せること、後者地方機關を株式化せること及び北地に於ける調達業よりソ聯邦皮革工業シンヂケート及び其他企業を除外せること等によつて、北地に於て活動しつゝある團體数は著しく縮少され、今日まで残つてゐるものはロシア共和國營外國貿易廳、カムチャトカ株式會社及びコーペラーチヤだけである。

以上の變化の結果、國營商業網は一七%縮少され、同時にコーペラーチーフ商業網が、主として聯合協同組合の發生及び激増によつて、一二八%方増加した。

一九二八—一九二九年乃至一九三四年一月一日間、商業網の増加はコーペラーチーフ及び國營商業孰れにも見受けられた。加ふるにこの期間の國營商業網の増加は、コーペラーチーフよりも遙かに急速度をもつて行はれた。これは主として全聯邦毛皮調達合同網の發達及び木材業、漁業トラスト、北洋航路中央管理局系の閉鎖配給所型の商業地點の發生によるものである。

この期間に於ける組合及び地方別北地商業網發達の動態を示すものは次表であつて、一九二六年度資料は國內貿易、國外貿易及びコーペラーチーフ大會(一九二七年二月)資料中より、そして一九二八—一九二九年度資料はロシア共和國經濟評議會に於ける一九二九年八月八日附ロシア共和國内外貿易人民委員會の北地に於ける商業及び商業網

の整理政策に關する報告中より夫々引用したものである。この表を検討し且つ之をば後年の表と比較するに當つて
 ムルマンスキイ管區の商業地點數には管區全體のものが(配給人民委員部資料)本表中に引用され、ヤクート共和
 國は單に民族區のみが引用されてゐることを忘れてはならない。何となればヤクートチヤ及びムルマンスキイ管區
 の一九二八—一九二九年度商業地點數に關する資料にはムルマンスク及びヒビノゴルスク兩市を除いたものが無い
 らである。尙一九三三—一九三四年度商業地點數中には臨時地點は含まれてゐない。

北地商業網の一九三三—一九三四年度に於ける状態は左表に示されてゐる。

北地常設商業網現状對照表

一九二六年、一九二八—一九二九年及び一九三三—一九三四年一月一日現在(閉鎖配給所をも含む)

地方名	國營商業	コーペラーチヤ					商業地點合計
		同組合協	狩獵業	消費組合	農業	其他コーペラーチヤ	
1、ムルマンスキイ管區(全體)							
一九二八—一九二九年	二一五	—	—	—	—	—	二一五
一九三三—一九三四年	八六	—	—	—	—	—	八六
2、北部地方北部	三四四	—	—	—	—	—	三四四

地方名	國營商業	コーペラーチヤ					商業地點合計
		同組合協	狩獵業	消費組合	農業	其他コーペラーチヤ	
1、ムルマンスキイ管區(全體)							
一九二八—一九二九年	四四	六六	五	一〇六	八三	二五	二六五
一九三三—一九三四年	一八八	七九	—	二九六	—	二	三七六
3、オプスコ・イルトシスカヤ州北部							
一九二八—一九二九年	三三三	一一八	—	二八〇	—	四〇	一四一
一九三三—一九三四年	四〇	七五	五	四一	—	二	二二八
4、ナルイムスキイ管區							
一九二八—一九二九年	三三七	三三四	—	—	—	—	一九五
一九三三—一九三四年	一三三	七三	—	—	—	—	二一〇
5、東部シベリヤ北部							
一九二八—一九二九年	五二五	一四一	—	—	—	—	一四一
一九三三—一九三四年	八九	一四八	—	—	—	—	一五三
6、ヤクート共和國北部地方							
一九二八—一九二九年	—	—	—	—	—	—	—
一九三三—一九三四年	一九七	一七二	—	四一	—	—	一五三
北地商業網	—	—	—	—	—	—	—
北地商業網	—	—	—	—	—	—	—

一九三四年一月一日現在北地諸地方商業網

順序番	地名	面積 (平方呎)	一九三四年一月一日現在		人口	常設	臨時	組合		手皮調達業	ア	コ
			人口	所當り				常設	臨時			
一	ムルマンスキイ管區(ムルマンスク及びヒビノゴルスタ市並にボリツールヌイ及びテリベルタスキイ兩區を除く)	三六,五〇〇	一,五七〇	四〇	一,五七〇	一	三	一	一	一	一	一
二	北部地方北部	三三,六〇〇	一,四七五	三六	一,四七五	一	三	一	一	一	一	一
三	内譯 ソロウツキエ諸島	一九,六〇〇	七〇〇	六	七〇〇	一	一	一	一	一	一	一
四	” ネネツキイ民族管區	二八,三〇〇	二,三二六	三〇	二,三二六	一	一	一	一	一	一	一
五	” ヲゼンスキイ區	二七,六〇〇	二,五〇〇	二二	二,五〇〇	一	一	一	一	一	一	一
六	” レシコンスキイ	二二,九〇〇	二,四〇〇	二二	二,四〇〇	一	一	一	一	一	一	一
七	” コミ州北地地方	三三,七〇〇	一,〇七〇	三三	一,〇七〇	一	一	一	一	一	一	一
八	内譯 ウスチ・ツィレムスキイ區	三三,七〇〇	一,〇七〇	三三	一,〇七〇	一	一	一	一	一	一	一
九	” イジ・ムスキイ	二六,四〇〇	二,六〇〇	二六	二,六〇〇	一	一	一	一	一	一	一
一〇	” ウスチ・ウシンスキイ	八八,五〇〇	九,一〇〇	二七	九,一〇〇	一	一	一	一	一	一	一
一一	” ウドルスキイ	二四,〇〇〇	二,四〇〇	二四	二,四〇〇	一	一	一	一	一	一	一
一二	” トロイツコ・ベチ・ールスキイ	二〇,〇〇〇	二,〇〇〇	二〇	二,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
一三	オプスコ・イルト・シスカヤ州北部	一,一七〇,〇〇〇	一,一七〇,〇〇〇	一,一七〇	一,一七〇,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
一四	内譯 ヤマリスキイ民族管區	四六,〇〇〇	四,〇〇〇	四六	四,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
一五	” オスチ・ウチ・ウチ・グリスキイ	六五,〇〇〇	三,三〇〇	六五	三,三〇〇	一	一	一	一	一	一	一
一六	” ナルイムスキイ管區(チャイノスキイ及びクリウ・シイノスキイ區を除く)	二五,七〇〇	六,八〇〇	二五	六,八〇〇	一	一	一	一	一	一	一
一七	” 東部シベリヤ地方北部	二,一三〇,〇〇〇	二,一三〇,〇〇〇	二,一三〇	二,一三〇,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
一八	内譯 タイムイルスキイ民族管區	六六,〇〇〇	三,〇〇〇	六六	三,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
一九	” エウ・ンキ・スキイ	五四,〇〇〇	六,四〇〇	五四	六,四〇〇	一	一	一	一	一	一	一
二〇	” ウィティモ・オレクミンスキイ	二九,〇〇〇	九,三〇〇	二九	九,三〇〇	一	一	一	一	一	一	一
二一	” カタンクスキイ民族區	一五,〇〇〇	二,五八〇	一五	二,五八〇	一	一	一	一	一	一	一
二二	” トルハンスキイ區	三〇,〇〇〇	一,五〇〇	三〇	一,五〇〇	一	一	一	一	一	一	一
二三	” イガルススキイ	五五,〇〇〇	一,八〇〇	五五	一,八〇〇	一	一	一	一	一	一	一
二四	” フリ・ト・蒙古共和國・バウントフスキイ區	七二,五〇〇	八,〇〇〇	七二	八,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
二五	” 北部・バイカリスキイ	二〇,〇〇〇	三,〇〇〇	二〇	三,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
二六	ヤクト・ト共和国	二,〇一〇,〇〇〇	二,〇一〇,〇〇〇	二,〇一〇	二,〇一〇,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
二七	内譯 ブルンスキエ山岳地方	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一	一,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
二八	” ウルホヤンスキイ	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一	一,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
二九	” コルイムスキイ	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一	一,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
三〇	” アルダンスキイ	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一	一,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
三一	” ヤクト・ト共和国民族區全部	二,〇四八,〇〇〇	二,〇四八,〇〇〇	二,〇四八	二,〇四八,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
三二	極東地方北部	二,六三三,〇〇〇	二,六三三,〇〇〇	二,六三三	二,六三三,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
三三	内譯 チョクトスキイ民族管區	七六,〇〇〇	一,九三三,〇〇〇	七六	一,九三三,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
三四	” コリタスキイ	三〇,〇〇〇	一,七〇〇,〇〇〇	三〇	一,七〇〇,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
三五	” オホツコ・エウ・ンスキイ	七五,〇〇〇	一〇,二三四,〇〇〇	七五	一〇,二三四,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
三六	” カムチャトスカヤ州	一〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	一〇	三,〇〇〇,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
三七	” マテリコーウエ(大陸)民族區	五五,七〇〇	五,四〇〇,〇〇〇	五五	五,四〇〇,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
三八	” サハリン	四一,〇〇〇	三,九〇〇,〇〇〇	四一	三,九〇〇,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一
合計		九,八八〇,〇〇〇	一〇〇,二九四,〇〇〇	九,八八〇	一〇〇,二九四,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一

一九三四年一月一日現在	一九二八—一九二九年に對する動態
七二六	二六二・八
八六九	二四三・五

在北地諸地方商業網

町	人口	面積 平方町	人口	常設		臨時		合計		組合系商業地 開設数	公共 開設数	商業地 開設数
				常設	臨時	常設	臨時	常設	臨時			
				消費組合	産業組合	手皮調達業	ア コ ト	トルグ ン	其他			
三	10,000	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
四	15,000	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150
五	20,000	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200
六	25,000	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250
七	30,000	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300
八	35,000	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350
九	40,000	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400
十	45,000	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450
十一	50,000	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500
十二	55,000	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550
十三	60,000	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600
十四	65,000	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650
十五	70,000	700	700	700	700	700	700	700	700	700	700	700
十六	75,000	750	750	750	750	750	750	750	750	750	750	750
十七	80,000	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800
十八	85,000	850	850	850	850	850	850	850	850	850	850	850
十九	90,000	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900
二十	95,000	950	950	950	950	950	950	950	950	950	950	950
二十一	100,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
二十二	105,000	1,050	1,050	1,050	1,050	1,050	1,050	1,050	1,050	1,050	1,050	1,050
二十三	110,000	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
二十四	115,000	1,150	1,150	1,150	1,150	1,150	1,150	1,150	1,150	1,150	1,150	1,150
二十五	120,000	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
二十六	125,000	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250
二十七	130,000	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300
二十八	135,000	1,350	1,350	1,350	1,350	1,350	1,350	1,350	1,350	1,350	1,350	1,350
二十九	140,000	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400
三十	145,000	1,450	1,450	1,450	1,450	1,450	1,450	1,450	1,450	1,450	1,450	1,450
三十一	150,000	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
三十二	155,000	1,550	1,550	1,550	1,550	1,550	1,550	1,550	1,550	1,550	1,550	1,550
三十三	160,000	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600
三十四	165,000	1,650	1,650	1,650	1,650	1,650	1,650	1,650	1,650	1,650	1,650	1,650
三十五	170,000	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
三十六	175,000	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750
三十七	180,000	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
三十八	185,000	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850	1,850
三十九	190,000	1,900	1,900	1,900	1,900	1,900	1,900	1,900	1,900	1,900	1,900	1,900
四十	195,000	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950	1,950
四十一	200,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
四十二	205,000	2,050	2,050	2,050	2,050	2,050	2,050	2,050	2,050	2,050	2,050	2,050
四十三	210,000	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100
四十四	215,000	2,150	2,150	2,150	2,150	2,150	2,150	2,150	2,150	2,150	2,150	2,150
四十五	220,000	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200
四十六	225,000	2,250	2,250	2,250	2,250	2,250	2,250	2,250	2,250	2,250	2,250	2,250
四十七	230,000	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300
四十八	235,000	2,350	2,350	2,350	2,350	2,350	2,350	2,350	2,350	2,350	2,350	2,350
四十九	240,000	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400
五十	245,000	2,450	2,450	2,450	2,450	2,450	2,450	2,450	2,450	2,450	2,450	2,450

一九二八	一九二九	一九三〇	一九三一	一九三二	一九三三	一九三四	一九三五	一九三六	一九三七	一九三八	一九三九	一九四〇	一九四一	一九四二	一九四三	一九四四	一九四五	一九四六	一九四七	一九四八	一九四九	一九五〇																																																											
105	190	210	220	230	240	250	260	270	280	290	300	310	320	330	340	350	360	370	380	390	400	410	420	430	440	450	460	470	480	490	500	510	520	530	540	550	560	570	580	590	600	610	620	630	640	650	660	670	680	690	700	710	720	730	740	750	760	770	780	790	800	810	820	830	840	850	860	870	880	890	900	910	920	930	940	950	960	970	980	990	1000

現有資料に基く一九三四年一月一日現在北地諸地方閉鎖配給所網一覽表

順序番号	地名	配給所合計		聯合組合		組		合		系		内		譯	
		常設	臨時	常設	臨時	常設	臨時	常設	臨時	常設	臨時	常設	臨時	常設	臨時
一	ムルマンスキイ管區(ムルマンスク及びヒビノゴルスク兩市を除く)	四五	八二											四五	四〇
二	北部地方北部	九二	八二											九二	八二
三	内譯 ソロウツキエ諸島	一一												一一	
四	内譯 ネットスキイ民族管區	一一												一一	
五	メゼンスキイ區	一一												一一	
六	レシコンスキイ	一一												一一	
七	コミ州ウスチ・ツイレムスキイ	一一												一一	
八	ウズチ・ウシンスキイ	一一												一一	
九	ウドルスキイ	一一												一一	
一〇	トロイツコ・ベチ・トルスキイ	一一												一一	
一一	オブスコ・イルトシスカヤ州北部	一一												一一	
一二	内譯 ヤマリスキイ民族管區	一一												一一	
一三	オステャコ・ウ・オグリスキイ民族管區	一一												一一	
一四	ナリムスキイ管區(チャインスキイ及びクリウ・シインスキイ區を除く)	一一												一一	
一五	東部シベリヤ地方北部	一一												一一	
一六	内譯 タイムイルスキイ民族管區	一一												一一	
一七	エウエンキースキイ	一一												一一	
一八	ウヂイモ・オレクミンスキイ民族管區	一一												一一	
一九	カタングスキイ民族管區	一一												一一	
二〇	トナルハンスキイ區	一一												一一	
二一	イガルスキイ	一一												一一	
二二	ブリヤット蒙古共和國ハウント	一一												一一	
二三	フスキイ區	一一												一一	
二四	ブリヤット蒙古共和國北部バイ	一一												一一	
二五	サハリン	一一												一一	
合計		三四七	一一三	四八	一	四七	一〇	一	一	二六	一	二八	一一	二四八	七八

右表に對しては次の備考を必要とする。

(一) 一九三四—三五年度管區及び區別人口は北部地方諸地方、ブリヤート蒙古共和國のバウントフスキイ及び北部バイカリスキイ諸區並にヤクーツヤ民族諸區を除き、主として地方の配給申告書中から借用したものである。尙これらの諸地方に關しては他の資料を缺いたため一九三三年一月一日現在の人口を掲げた。

サハリン及びイガルスキイ區の住民は一九三四年一月一日現在の状態を示すものである。ネネツキイ民族管區の労働者及び従業員の数は、一九三四—五年度計畫案に經濟評議會の一九三三—一九三四年度配給計畫に取扱はれたる産業住民をも加へたものである。

(二) 管區及び區別商業地點数は、地方執行委員會及び配給支部の一九三三年第四期及び一九三四年一月一日現在の商業網の状態に關する報告に基くものであるが、コミ州ウスチ・ウシンスキイ區、ブリヤート蒙古共和國バウントフスキイ區は之を除く。上記諸地方に於ける商業地點数は概算的に示したものである。之と同じくサハリン及び極東地方マテリコウイエ民族區も、その商業網はソ聯邦配給人民委員部商業局の資料に基けるものである。これらの諸地方の商業網に關する資料及びカムチャトスカヤ州に於ける全聯邦毛皮業合同の商業地點数は正確化を必要とする。

こゝに注意せねばならぬことは、北地商業網今後の發達に關する結論——本表檢討に際し念頭に浮ぶもの——は、本表に掲げられたる資料の外に、商業地點の状態、商業網の配置及び北地各地に於ける人口分布の性質等を考慮に置く場合に於てのみ正確を期し得るのである。

九 北地に於ける物資調達状態

(ソ聯邦配給人民委員部資料に據る)

ヤ・クリムシ・フ

一九三四—一九三五年度北地地方貨物搬入計畫を作成するに當り吾人は産業住民の一九三四年度北地地方別生産品調達豫想細表を作成した。

中央官衙及び機關の當該資料を照合し地方機關の資料を聚集し、點檢し且つ増補を加へたる結果、吾人はこゝに地方及び團體別明細表を持つに至つたのである。この表中には商品化されたる車馬輸送額をも含めた。然るに北地の商業・調達に携はる地方及び州機關に於ては専門的な統計も特別な調達計畫も設けられてゐない。従つて表は、産業住民經濟の商品化率を充分明確に示してゐない。事實上、各地方に於ては表に現はれた數字よりも何れかの方面へ著しき偏差を持ち得るのである。こゝの一方からは當該地方及び州がその提示せる資料に於て地方の調達可能性及び實際的調達を明示してをらず、又他方からは、或る場合誇張された計畫案を中央に提出してゐるからである。一例を示せば、メゼンスキイ及びレシュコンスキイ區の住民の主なる注意は造材へ注がれてゐるに不拘、これらの地方に於ては他の産業部門生産品の方が、北地の地方機關によつて提示されてゐるよりも遙かに優つてゐる。

10.0	三、二七〇	聯合協同組合
20.0	一、一七〇	聯合協同組合
30.0	二、四〇〇	全聯邦毛皮業合同
40.0	一、五二〇	聯合協同組合
50.0	三、八四六	聯合協同組合
60.0	二、一六四	全聯邦毛皮業合同
70.0	二、八五二	消費組合
80.0	一、二五〇	地方國營商業買付部
90.0	五、九五〇	漁夫消費組合
100.0	三、八二〇	

オブスコ・イルティシスカヤ州………	小計	三、三〇〇・〇	三、三〇〇・〇	四〇〇・〇	一、四四〇・〇	二七〇・〇	五三〇	九五〇・〇	一、三〇〇・〇	三三〇・〇	七四〇・〇	一、一九〇・〇
北地全部		二、四七〇・〇	二、三〇五・〇	四〇〇・〇	九〇〇・〇	九九〇・〇	三〇〇	一、〇〇〇・〇	九〇〇・〇	三三〇・〇	四三〇・〇	八〇〇・〇
7、西部シベリヤ北部……… (ナリムスキイ管区)	小計	一、二五〇・〇	一、七二〇・〇	一、八三〇・〇	九七〇・〇	一、七〇〇・〇	六〇〇	一、一五〇・〇	六〇〇・〇	一、一五〇・〇	一、〇〇〇・〇	一、一九〇・〇
8、タイムイルスキイ管区………	小計	二、三七八・〇	一、七二〇・〇	一、八二〇・〇	一、一五〇・〇	一、一九五〇	六〇〇	一、二五〇・〇	九〇〇・〇	二、五〇〇・〇	一、二〇〇・〇	四九〇・〇
9、エウレンキースキイ管区………	小計	一、五四〇・〇	九六〇・〇	八二〇・〇	八二〇・〇	九四〇・〇	二〇〇	四五〇・〇	二、〇〇〇・〇	二、〇〇〇・〇	五〇〇・〇	五五〇・〇
10、イガルススキイ管区………	小計	二、四九〇・〇	九六〇・〇	八二〇・〇	八二〇・〇	二、三二五	二〇〇	四五〇・〇	二、〇〇〇・〇	二、〇〇〇・〇	二、〇〇〇・〇	五〇〇・〇
11、トルハンスキイ管区………	小計	一、二七六・〇	五三〇・〇	七五〇・〇	一、一五〇・〇	二、三二〇	二〇〇	三三〇・〇	二、〇〇〇・〇	二、〇〇〇・〇	一、五〇〇・〇	五五〇・〇
12、ウディモ・オレタミンスキイ管区………	小計	四〇〇・〇	七三〇・〇	八六〇・〇	八六〇・〇	七三〇	二〇〇	一、一五〇・〇	四〇〇・〇	二、〇〇〇・〇	二、〇〇〇・〇	五〇〇・〇
13、カタンクスキイ管区………	小計	八二〇・〇	七三〇・〇	八六〇・〇	八六〇・〇	七三〇	二〇〇	一、一五〇・〇	四〇〇・〇	二、〇〇〇・〇	二、〇〇〇・〇	五〇〇・〇
東部シベリヤ北部全部………	小計	二、二六九・〇	二、七七八・〇	三、〇四〇・〇	三、〇四〇・〇	二、七〇〇	二〇〇	七四〇・〇	二、七〇〇・〇	二、七〇〇・〇	二、七〇〇・〇	五〇〇・〇
14、ブリート蒙古共和国北地………	小計	五、六三三・五	二、七七八・〇	三、〇四〇・〇	三、〇四〇・〇	一、五七五	一〇〇	七四〇・〇	一、〇〇〇・〇	一、〇〇〇・〇	一、〇〇〇・〇	二七〇・〇
15、ヤクート共和国………	小計	一、七六〇・〇	八三三・〇	一、〇〇〇・〇	一、〇〇〇・〇	八五〇・〇	一〇〇	一、〇〇〇・〇	一、〇〇〇・〇	一、〇〇〇・〇	一、〇〇〇・〇	二〇〇・〇
16、極東地方北部(大陸)………	小計	七、七八〇・〇	二、二六〇・〇	三、〇〇〇・〇	四〇〇・〇	三、〇〇〇・〇	二〇〇	四〇〇・〇	一、〇〇〇・〇	一、〇〇〇・〇	一、〇〇〇・〇	二〇〇・〇
17、カムチャトカ(チュコトスキイ、コリヤクスキイ、オホツキイ管区及びカムチ、トスカヤ州)	小計	一、五〇〇・〇	五、五八〇・〇	一、〇〇〇・〇	一、〇〇〇・〇	二、二四〇・〇	五〇〇	五〇〇・〇	一、〇〇〇・〇	一、〇〇〇・〇	一、〇〇〇・〇	二〇〇・〇
17、北地合計………	小計	三、三〇〇・〇	五、五八〇・〇	一、〇〇〇・〇	一、〇〇〇・〇	二、二四〇・〇	五〇〇	五〇〇・〇	一、〇〇〇・〇	一、〇〇〇・〇	一、〇〇〇・〇	二〇〇・〇

るのである。この二區は野獸肉及び野禽、柔毛及び羽毛、藥品原料及び其他野生植物、並に養獸業及び農業生産品を、より多く調達する可能性を持つてゐるのである。本年度地方提出に係る資料中には未だ農業、養獸業及び農業生産品調達の品目區分が明確に示されてゐない——資料にはこれら調達に關し總額が擧げられてゐる。皮革年産約十五——十六萬枚を産し且つヤクティーヤ皮革工場に於て毎年五萬枚の大小皮革を加工してゐるヤクティーヤの如き地方でさへ、その資料中には養獸業生産品調達總額中から皮革原料調達額が區分されてゐない。

上記分類及び調査の諸欠陥にも不拘、調達に關する資料は大體に於て實際狀態に該當し、集團化部門への商品生産品納入の可能性を示してゐる。北地全地方の農村住民の商品生産品總産額はカムチャトカをも含め一億百十七萬留とされ、カムチャトカを除けば、八千九百十五萬留である。調達及び車馬運送費を償はねばならぬ全豫備物資の小賣値段は一億二千二百留と計算されなければならない。

一〇 北地向食糧品貨物の搬入経路及條件の概要

(現地及び中央機關の資料並に現地及び中央機關員の陳述に基けるもの)

ア・ミ・ハリョフ

チユトスキイ、コリヤクスキイ、オホツコ・エウンスキイ
民族管區及びカムチャトスカヤ州

- (一) 仕向鐵道驛——ウラヂオストック。
ソ聯中央からウラヂオストック迄の鐵道貨物走行は、平均一一九日間(走行一五四、一六八及び一九二日間の場合もある)、海路ではオデッサ港經由——平均一三九晝夜(特に甚たしきは一九〇、一九八及び二二〇日間を要した場合がある)を要する。
- (二) 荷卸し、再區分、再包装、ウラヂオストックに於ける北洋航路汽船への荷役に三〇晝夜迄を要する。
- (三) ウラヂオストックより貨物は之が爲に特に任命されたるアコ會社の船舶(所謂「配給船」)によつて沿岸各地に配送される。

配給船の順當なる出帆時期は長年の經驗に基き次の通り規定されてゐる。

チユトスキイ民族管區

- (一) ウラヂオストック——プロウイデニヤ灣航路。ウスチ・カムチャトスク(コマンドルをも含む)より各商業地點へ寄航する……………六月十五日。
- (ウラヂオストックへの歸港は十月中)
- (二) ウラヂオストック——デヂネフ航路(グルボーカヤ灣より各商業地點へ寄航する)……………六月十五日。
- (ウラヂオストックへの歸港は九月末)
- (三) ウラヂオストック——チユトスキイ半島北方沿岸——コルイマ(コルイムスキイ航路)……………六月十五——二十日。

コリヤクスキイ民族管區

- (一) ウラヂオストック——オゼルナヤ及び更にカメンスキイに至る航路(オゼルナヤよりイーチャ迄——カムチャトスカヤ州。更にカメンスキイ迄——コリヤツスキイ民族管區)……………六月一日
- (ウラヂオストックへの歸港は十月中)
- (二) カラギンスキイ及びオリュートルスキイ地方(東海岸)向貨物は、チユトスキイ民族管區行と同じ航路によつて配送される。

一〇 北地向食糧品貨物の搬入経路及條件の概要

オホツコ・エウンスキイ民族管區

ウラヂオストック——ギシガ——ナガエウ——オホツク——アヤン及び中間商業地點航路………六月十五日
(ウラヂオストックへの歸港は九月末)

カムチャトスカヤ州

(一) ウスチ・カムチャトスキイ區は部分的にはチュコトスキイ管區行と同じ航路によつて配給される(ウラヂオ
ストック出帆六月十五日)。ウスチ・カムチャトスクミの汽船聯路は三月乃至十一月一杯行はれる。

(二) プイストリンスキイ民族區はウスチ・カムチャトスクを経てカムチャトカ河上流マシール及びコズイレフス
ク村迄(二〇〇及三〇〇杆)發動機船によつて配給される。こゝより奥地へは地方の車馬輸送(犬、馬)によつて
行はれる。

(三) アレウトスキイ區(コマンドル)チュコトスキイ管區行と同じ航路若くは特別汽船航路によつて配送され
る。

(四) ポリシユレツキイ區は部分的にはウラヂオストック——オゼルナヤ——ギシガ(コリ、クスキイ管區参照)
航路によつて配給される。但しこの外にもこの地方の汽船聯路は三月乃至十一月一杯行はれる。

(五) ペトロボウロフスキイ區はウラヂオストックへの着荷次第配給される。
ウラヂオストックよりペトロボウロフスクへの汽船は四月(三月からの時もある)乃至十二月まで通つてゐる。

三つの民族管區に於ては貨物の一部分は、十月初期結氷する河川に沿ひ管區奥地へ配送される。遠隔地(例へばア
ナド、リに於ては河川上流マルコウ、へは六〇〇杆、エロボルへは七〇〇杆)なるこゝ並に河川船舶の缺如(これが
ため現存の輸送機關は貨物移送のために數回航行しなければならぬ)し居るこゝのため、貨物は遅くも七月中に管
區へ到着しなければならぬ。然らざる場合には、貨物の大部分は海岸に越年せしめらる。のみならず、港の缺如
及び時化の爲、秋、汽船の到着遅れたる際には荷役は頗る困難事とされる。多數の貨物は減却され損傷され又間々
全然陸揚出来ぬこゝさへある。

極東地方大陸民族諸地方

ナナイスキイ區及びニコラエフスキイ管區

(一) 仕向鐵道驛——ハバロフスク(中央諸州よりの貨物走行平均日數は三ヶ月若くは三ヶ月半である)
(二) 河岸埠頭への荷移し及び汽船への積込み

ナナイスキイ區

(一) アムール河傳ひにサカチ——アリン——カルガ(全部で埠頭十二ヶ所ある)埠頭まで下る。
(二) 埠頭より舟及びランチにて小川傳ひに區奥地(二〇〇杆迄)へ至る。

ニコラエフスキイ管區

一〇 北地向食糧品貨物の搬入経路及條件の概要

- (一) ウリチスキイ區——アムール河傳ひに左の諸埠頭へ至る。
- (二) ニジネ・アムールスキイ——アムール河傳ひにト・イル埠頭に至る。
次いで汽船にてアムダン河傳ひにカメンカ村に至る。アムダン河は五月二十日以降六月一杯航行可能であるが、やがて水量を減じ航行不能に陥る(サミンスキイ淺瀬は航行不能である)
- (三) ケルビンスキイ區。アムダン河傳ひに六月中航行可能である。
アムール河の航行は五月前半期に開始され十月に終航となる(一九三二年一汽船が十月半ばハバロフスクを發しアムールを下つたが途中で凍結してしまつた)。汽船はハバロフスクよりアムール・ニコラエフスクまで四晝夜、往復七晝夜を要する。ハバロフスクに於ける貨物の義務的取扱ひは十月九日——十六日中止される。

ジェルトウラクスキイ區

- (一) 鐵道驛『ボリシヨイ・ネウール』及び『ウルーシヤ』(貨物走行は工業中心地から二ヶ月半若くは三ヶ月を要する)一例を挙げれば、一九三二年オレンブルグより發送された麥粉が三ヶ月を要し、モスクワより發送された芳香物が二ヶ月を要してゐる。
- (二) ボリシヨイ・ネウールより貨物は鋪裝路を荷馬車(自動車を缺く爲)にてジェルトウラク迄(一二〇杆——四、五日)運搬され、それから先はマクシモフスキイ村迄(二五五杆)約十日を要する。
- (三) ウルシヤより貨物は馴鹿積荷又は馬車にてオリドイスコ・ウルシンスキイ小區(密林中)へ運搬される。距

離約一六〇杆、日數八——一〇日間。この地方へは區中心地(ジェルトウラク)よりも運搬さる。距離約一五〇杆(一〇——一二日間)

輸送のため最好時期は十二月——三月である。

スタジアロ・トクスキイ區

- (一) 鐵道驛——ストラジエフカ(スウ・ボドヌイ市)
 - (二) スラジエフカより埠頭へ、そして汽船にてゼーヤ河の春の出水を利用する。汽船は五月後半期に出發する。航路の長きことは片道に五——七晝夜を要する。減水後汽船はゼーヤ河上流を航行するこゝは出来ない。
 - (三) 汽船より荷卸され、貨物はゼーヤ河よりボムナク(區中心地)迄小舟にて運搬(約一五〇杆——七日間)さる。
 - (四) ボムナクより貨物は馴鹿にて三五〇杆までの距離(ブリヤント聯合組合支部)迄運搬さる。
- ウルフネ・セレムジンスキイ區
- (一) 鐵道驛『ストラジエフカ』
 - (二) 驛より埠頭へ、そしてセレムジア河傳ひに汽船にて『ヤクトトスカヤ、ストイバ』(二八〇杆)迄航行し、貨物の小半はソフリースキイ砂金地(五二〇杆)まで運搬さる。
 - (三) 航行條件はゼーヤ河のそれと全く同様である。

ウルフネ・ブレインスキイ區

一〇 北地向食糧品貨物の搬入経路及條件の概要

- (一) 鐵道驛『ザウイタヤ』。
- (二) 埠頭への荷移しを了し、汽船にてブレーヤ河傳ひに(イ)チェクンダ村迄——三——五日間(ロ)ト。イルミ河口へ(一七〇秆)、更にト。イルミ河傳ひに舟にて一五〇——一六〇秆(貨物走行一六——二〇日間)上流のチクンダ迄、そして(ハ)チェクンダよりウスチ・ニマン迄舟にて一五〇——一六〇秆(八——一〇日間)。
- (三) ブレーヤ河の航行は五月前半期に開始され、約一ヶ月間行はれる(減水後はト。イルミ河口下流の淺瀬が航行を妨げる)。

クウロ・ウルミンスキイ區

- (一) 鐵道驛『イン』(貨物五〇%)及び鐵道驛『ハバロフスク』(五〇%)。
- (二) (イ)『イン』驛よりウルミンスキイ小區へは車馬にて二〇秆(四日間)、クカン村迄は冬季十一月—二月間輸送さる。
- (ロ)『ハバロフスク』驛よりラウルスキイ小區へは汽船にて『ハバロフスク』埠頭よりアムール河傳ひに、次いでト。ンダースク及びクラー川傳ひに『イワンコウツ』村に至る。但し五月及び六月中に限る、(六月を過ぎるミトウングースク及びクラー河は、原則として航行不可能であるが、水量如何に依り雨期には時として七月中も可能な場合がある)。

シホタ・アリニスキイ區

- (一) 鐵道驛『ウエリノ』(地方向總搬入貨物の三〇%)、『ビキン』(四〇%)、『イマン』(三〇%)。
- (二) (イ)『ウエリノ』驛より冬期車馬にてホール河に沿ひ上流(約一七〇秆)のハーダ村に至る(夏期ホール河は淺瀬、砂洲、岩石のために航行不可能である)片道所要時間六——八日間。
- (ロ)『ビキン』驛より冬期車馬にてビキン河に沿ひミタヘーザ村迄一六〇秆(五——七日間)及びラウヘ迄村四〇〇秆(一六——二〇日間)に至る。
- (ハ)『イマン』驛より冬期車馬にてイマン河に沿ひ上流のサンチヘーザ村迄約一七〇秆(五——六日間)に至る。冬期運搬時期は十一月乃至一月(二月末河は結氷する)である。

ソウエートスコト・ムニンスキイ區

- (一) ウラチオストック(貨物走行は中央より三——四ヶ月)
- (二) 汽船荷役、ダッタ灣(七——一〇日間)に至る。ダッタより舟にてト。ニン河傳ひに遡行し『ウシカ』村(四五秆—二晝夜)及びフト。ダッタ(八〇秆—四晝夜)に至る。五月から十月迄ト。ムニン河傳ひに舟にて航行することが出来る。

備考 ウラチオストックを経て海路サマルガ麗に至り、更にサマルガ河傳ひに遡行しフリミ村(六〇秆)及びククチ村(一四〇秆)に至る。然る後貨物はソウエートスコト・ムニンスキイ區の一部分である所謂サマルギンスキイ(テルネイスキイ)區に運搬さる。

ヤクート共和国

一〇 北地向食糧品貨物の搬入経路及條件の概要

(一) 貨物は左の鐵道驛に發送される。

(イ) トムスカヤ鐵道「ト・イレチ」驛及びザバイカル鐵道「イルクーツク」。一九三三年これらの驛へ發送されたものはヤクサーチヤ向貨物の八〇% (殘品共に) であつた。貨物の平均走行は中央より、これら驛迄平均四五―七〇日間である。

(ロ) ウラチオストック驛 (貨物の約七%、一九三三年―二三〇〇噸、貨物の平均走行は中央より一〇〇―一一九日間)

(ハ) アルハンゲリスタ市 (一九三三年度二七〇〇噸、即ち七・五%を發送したが、一九三四年度には一萬噸を發送する豫定である) 貨物の平均走行は二〇―二五晝夜、汽船への積替は一〇―一二晝夜である。

(ニ) ザバイカル鐵道「ポリシ・イ・ネウエル」驛。平均走行二ヶ月半―三ヶ月間。

(三) (1) 「ト・イレチ」驛より貨物はレナ河岸ジガロウ・埠頭、二九〇軒の距離迄四季を通じ車馬にて運搬される。但し地方住民の穀物播種及び收穫期を除く。

(2) イルクーツク驛より貨物は四方面に向つて發送される。

(イ) イルクーツク―レナ河岸カチューグ埠頭、距離二五六軒。一年中を通じ自動車のみを用ふ。この方面には貨物の大部分が流れ込む。

(ロ) イルクーツク―マルイシユフカー―ジガロウ埠頭。イルクーツクより貨物はアンガラ河傳ひにマ

ルイシユフカ埠頭 (二五〇軒) 迄運ばれ、其處よりジガロウ埠頭 (二二〇軒) 迄は荷馬車が通ふ。

(ハ) イルクーツク―ウスチ・ウダ―ジガロウ埠頭。アンガラ河傳ひにウスチ・ウダ (三〇〇軒) に至る。其處より荷馬車にてジガロウ (二二〇軒) に至る。

(ニ) イルクーツク―ザヤルスカヤ―レナ河岸ウスチ・クウト埠頭。アンガラ傳ひにザヤルスカヤ埠頭 (六〇〇軒) に至る。其處よりレノ・アンガルスキイ車道を荷馬車にてウスチ・クウト (二五五軒) に至る。

ジガロウ、カチューグ及びウスチ・クウト埠頭より貨物は主として大型帆船 (この浮送のため特別に建造されたもので、使用後は建築材、修理材及び薪材に用ひられる。そして極めて貨物の小部分が汽船にて運搬される。大型帆船は航行開始 (五月二十日頃) より十月二十日前後 (航行終了) までを三期に分つてレナ河の浮送に従事してゐる。春先の第一回浮送は二〇―二五晝夜、第二回三〇―三五晝夜、そして第三回四〇―四五晝夜である。最後の大型帆船 (第三回) はカチューグ、ジガロウ、ウスチ・クウトを避くも九月十五日前に出帆せねばならない。出帆遅延の場合は途中で凍結する。國營船舶部の輸送貨物の受付は九月五日を以つて終了する。

レナ河岸より少量の貨物はその支流 (ウイリユイ、アルタン等) 傳ひに三〇〇乃至一、五〇〇軒の距離まで運搬される。これには五―三〇晝夜を要する。大部分の貨物は冬期輸送 (馬、馴鹿) によつて奥地へ運搬される。

ウラチオストックより貨物は特設コルイムスキイ航路（ウラチオストック出帆は六月二十日前後）の汽船にてコルイムに、又同時にオホツク（様々なる航路の汽船にて）へ發送さる。コルイム河口より貨物はコルイム河上流地へ配達され、オホツクよりは馬及び馴鹿の荷車にてオイミヤコンスキイ及びモムスキイ區（距離七〇〇—八〇〇杆）へ運搬さる。

(ホ) 『ボ・ネウール』驛より貨物は自動車にてティムプトンスキイ及びトムモトスキイ區へ、車馬にてアムール・ヤクーツカヤ幹線道路に沿ひ平均六〇〇杆の距離に配達さる。幹線道路より貨物は荷馬車にて各區へ配達さる。

(ハ) アルハンゲリスクより貨物は一九三三年始めて北洋船路中央管理局の特別仕立てのレナ探險船にてテイクシ灣（レナ河口）へ發送された。探險船出帆の順當な時期は七月中旬（七月下旬より遅れざることを）である。アルハンゲリスクよりテイクシ灣迄探險船は三十日を要し荷役に八日を費した。テイクシ灣より貨物はレナ上流（ヤクーツク迄）へ運搬さる。（汽船『ビヤレチカ』は一九三三年この航路に約四十日間を費した。）

タイムイルスキイ民族管區

- (一) 鐵道驛『クラスノヤールスク』、貨物の走行平均日数は中央地方から四〇—四五日間。
- (二) 汽船への積替へ後、エニセイ河を下り埠頭、即ち『ド・ディンカ』（長距離二〇—二四日間）『カラウル』

(二二—二六日間) 『ガリチーハ』（二五—三八日間、尙ド・ディンカよりガリチーハ迄半海洋型の汽船が荷船を曳行する）へ至る。

(三) エニセイ河はガリチーハに於ては十月中頃結氷し、ド・ディンカに於ては十月末結氷する。

(四) クラスノヤールスクよりド・ディンカへの初航路は五月二十日乃至六月十日。第二航路七月十日乃至二十日、第三航路—八月末乃至九月始め（第三航路の汽船は冬の到来早き場合結氷の恐れある故ド・ディンカ村迄航行しない場合がある。國營船舶部の貨物の義務的受付は九月十二日で中止される（クラスノヤールスクに於て）。

(五) エニセイ河岸より貨物は冬期馴鹿にてハンタイスコエ湖（約二〇〇杆）ノリリスク（一〇八杆）、チョールナヤ・レーチカ（二五〇杆）エナド、ヒタ、ビヤシノ（三五〇杆）ウヨロシヤンカ（五〇〇杆）、ハタンガ（一〇〇〇杆）、ボベガイ（一、五〇〇杆）、カルゴ（一、三〇〇杆）、ノーワヤ河（二三〇〇杆）へ運搬される。

備考 一九三三年所謂南部タイムルスキイ水路探險隊によつて始めて貨物が次の經路によつて發達された。クラスノヤールスク—エニセイ河口—海—ビヤシノ河口—ビヤシノ河傳ひにド・ディンカ河口に至る（探險隊のクラスノヤールスク出發は六月二十八日、ド・ディンカ河へは九月八日到着す）

ドット。イプタより貨物は發動機船にて連水陸路（連水陸路は延長約三杆でアワム河ミト。イグナル河ミを二分してゐる）、連水陸路より小發動機船にてト。イグナル河傳ひにウヨロシヤンカ河、ヒタ河及びハタンガに至る。ハタンガよりボベガイ迄—約五〇〇杆は馴鹿を使用する。

一〇 北地向食糧品貨物の搬入經路及條件の概要

エウニキースキイ民族管區

(一) 仕向驛——クラスノヤルスク、そして少量の貨物のためにはカンスク及びタイシト。貨物走行平均日数は中央地方より四〇——四五日間クラスノヤルスクに於ける貨物分類及び積替に平均一五晝夜を要する。

(二) クラスノヤルスクよる貨物は次の通り發送さる。

(イ) ボドカーメンナヤ・ト。ングースカ河を汽船若しくは發動機船にてボドカーメンナヤ・ト。ングースカ驛に至る。それから先は舟(若しくは曳網舟)にてボドカーメンナヤ・ト。ングースカ(一、四〇〇軒)のバイキート村に達する。この所要日数約二十五晝夜である。バイキートより貨物は河傳ひに舟(曳網舟)にて、若しくは冬期馴鹿橋にてバイキートスキイ區の商業地點に配達さる。

(ロ) 汽船若しくは發動機船にてエニセイ河傳ひにトルハンスク(一、六〇〇軒)を経て、更にノーワヤ・トルハンスカ河傳ひにトゥーラ(トルハンスクより一、一〇〇軒)に至る。

途中ノーワヤ・ト。ングースカに在る商業地點(ポリシイ・ボローグ、コチュムデカ、チヌスコウキ、ウチアムイ、ウ・ウ)に於て荷卸が行はれる。トゥーラより貨物は冬期馴鹿(馴)にてチリング、エセイ、エコンダ等に配達さる。クラスノヤルスクよりトゥーラ迄の日数は約二十五晝夜を要する。

ボドカメンナヤ・ト。ングースカは五月後半期に解氷し、夏期水量を著しく減じ浅くなる。ノーワヤ・ト。ングースカは六月初旬に解氷し、多量の水量を六月十日まで持續し、その後河は浅くなり八月には早瀬のために

航行不能に陥る。九月には水量を増し再び流水期迄、即ち九月末——十月初めまで小船の航行可能なる

(三) 『タイシト』驛より貨物は車馬にてケジマを経てストレルカ・チュニ(チュンスキイ區)へ運搬さる。約一、

〇〇〇軒、日數三十晝夜。必要の場合、貨物はストレルカ・チュニよりトゥーラへ運搬さる。

(四) 『カンスク』驛より貨物は車馬にてボグチャスイを経てバイキート迄(距離約一、〇〇〇軒、日數三十晝夜)運搬さる。

ウイティモ・オレクミンスキイ民族管區

(一) 鐵道驛——チタ、モゴチャ及びネルチンスク。貨物の走行平均日數、工業地より七〇——一八〇日間。

(二) それから先の貨物の移動は次の如くである。

(イ) チタ驛より冬期馬車にてロマノフスキイ村迄(一五七軒)

ロマノフスキイより大型帆船にてウイティマ河傳ひに浮送さる。

(ロ) モゴチャ驛より冬期貨物はト・ピク迄運搬され、後者よりト。ンギーラ及びオレクマ河傳ひに下流へ下る。

(ハ) ネルチンスクより貨物は冬期馬車にて運搬さる。

カタンクスキイ民族區

(一) 仕向鐵道驛『イルクーツク』。貨物走行は中央地方より四五——七〇日間。

一〇 北地向食糧品貨物の搬入経路及條件の概要

- (二) イルクーツクより貨物は次の如く發送さる。
- (イ) カチューグへは車馬若くは自動車にて、そしてカチューグよりレナ河傳ひに汽船にてキレンスクへ——平均十二晝夜(カチューグ滞在日数を算入せず)。
- (ロ) キレンスクより貨物は車馬にてボドウォローチノエ村ノーワヤ・トングスカ河上流)に配達さる——九〇籽。
- (ハ) ボドウォローチノエ村より貨物は小部分冬期車馬にてエルボガチェン(中央區)へ運搬されるが、エルボガチェンへは、主として浮送機關(ノーワヤ・トングスカ河傳ひ)にて配達され約十日間を要する。イルクーツクよりエルボガチェンへ至る全里程は一、六五七籽である。
- レナの航行はキレンスク區に於ては五月の前半に開始され、十月中旬に終了さる。

ト。ルハンスキイ區

- (一) 仕向驛「クラスノヤールスク」、貨物走行平均日数は四〇——四五日間。
- (二) クラスノヤールスクより貨物は汽船にてエニセイ河傳ひに輸送され、エニセイ河岸に散在する商業地點に荷卸さる(クラスノヤールスクより近距離の商業地點は約七〇〇籽、遠距離は一、六〇〇籽以上である)。
- エニセイ航行開始は五月前半期で、終航は十月下旬である。荷物運搬日数はクラスノヤールスクよりト。ルハンスク迄平均一〇——一四晝夜。

- (三) タゾフスキイ小區(ヤノフスタン、ツェルコウエンカ等)へ貨物は次の如く輸送さる。

(イ) ト。ルハンスクを経てト。ルハン河傳ひにファルコウ村より稍々上流(二〇有餘籽)へ至り、其處より冬季車馬にて産業地點へ配達さる。

(ロ) オブスカヤ灣——ハリメルセデを経て(ヤマリスキイ管區への輸送参照)發動機船にてターズ河傳ひにツェルコウエンカ村(ターズ河口より八〇〇籽)に至り、其處より車馬にて冬期商業地點へ配達さる。

イガルスキイ區

- (一) 仕向鐵道驛「クラスノヤールスク」

(二) クラスノヤールスクより汽船にてエニセイ河傳ひにイガルカ(一九三二籽)及び其他の商業地點へ至る。

所要日数一四——一八晝夜。

- (三) エニセイの航行は五月前半期より十月末迄である。

ブリヤート蒙古自治共和國

北部バイカリスキイ區

- (一) 鐵道驛はザバイカリスキイ鐵道「バイカル」、貨物走行平均日数は中央地方より約七十日間。
- (二) 「バイカル」驛より貨物はバイカル湖上を汽船にて地方の各埠頭に至り、其處より車馬及び舟にて地方の
- 一〇 北地向食糧品貨物の搬入経路及條件の概要

商業地點に配達さる。

バイカル湖の航行は平均六月一日に開始され、十一月終了さる。國營汽船部の貨物の義務的受付は十一月二十日中止さる。

(三) 輸送は一月—三月の冬期聯絡によつても可能である。

この輸送方法に任ずることの出来るものは小部分の貨物のみである(この方法によつて輸送された實驗は、主として汽船輸送の際危険物扱ひさるゝ石油、重油、揮發油である)。冬期聯絡による輸送は馬車で平均六〇〇軒の距離に及ぶ。

冬期聯絡による貨物一噸當り運送費は約五〇〇留を要する。汽船は約一〇五留である。

バウントフスキイ區

(一) 鐵道驛バイカル鐵道『バイカル』、『チタ』、『モグゾン』。貨物走行平均日数は工業地より約七十日間。

(二) これらの驛より貨物は次の三方面へ輸送さる。

(イ) 『バイカル』驛より汽船にて『バイカル』湖上を走行、バルグジン河岸モゴイタ埠頭(航行は五月十五日乃至十月一日間)に至る。モゴイタより冬期馬車にて『バウント』湖畔の中央賣店(十二月一日乃至四月一日間)に至る。

(ロ) 『チタ』驛より十二月乃至三月一杯馬車にてウテム河岸ロマノフスキイ村に至る。ロマノフスキイ村より浮送機關にてウテム河傳ひにカラカリスキイ、バンブイスキイ及びムイスキイ支部に至る。航行は七月一日乃至十月一日間水量多き時に行はれる。

(ハ) 『モグゾン』驛より冬期十二月一日乃至四月一日間馬車にてエラウナを経てバウントに至る。

ナルイムスキイ管區

(一) 仕向驛—トムスク及びノウシビルスク。貨物走行平均日数中央地方よりノウシビルスク迄二十晝夜、トムスク迄—三五晝夜。

(二) ノウシビルスク及びトムスクより貨物は汽船にて運搬され、オビ河埠頭に荷揚され、其處より發動機船及び舟にて河傳ひに奥地商業地點へ配達さる。管區奥地へ貨物が輸送される経路となつてゐる諸川は、夏季水量を減じ、砂洲を横切るに大困難を伴ふ。それで春の出水を利用し輸送する必要が生ずる譯である。トムスク及びノウシビルスクから奥地商業地點へ貨物が配達さるゝ日数は七日乃至二十五晝夜を要する。

オビ河の航行は管區内に於ては五月初旬に開始され、十一月(一日乃至二十日)に終了さる。

ウラリスカヤ州ヤマリスキイ及びオステ、コウ、グリスキイ民族管區

(一) 鐵道驛トゥーラ(テムニ埠頭)タウダ(カラト、ンカ埠頭)及びクロムジノ(オムスク附近)。貨物走行は

一〇 北地向食糧品貨物の搬入経路及條件の概要

一〇——一五晝夜。貨物分類及び汽船荷役に一〇——一五晝夜を要する。

(二) これらの驛より貨物は次の経路によつて管内へ輸送さる。

ヤマリスキイ管區

(一) サレ・ハルド(管區中心)へは次の汽船及び荷船が通ふ。

(イ) テュメニよりトーラ——トボル、イルトイシ——オビ(約一、九〇〇軒)河傳ひにて概算十五晝夜(荷船にて直行した場合)。

(ロ) カラトツンカよりタウダ、トボル、イルトイシ及びオビ河傳ひにて約二、九〇〇軒、約十五晝夜。

(ハ) クウロムジノよりイルトイシ及びオビ河傳ひにて(二、五〇〇軒以上、約二〇——二五晝夜)

(二) オビ灣(タムベイ、ユリベイ(グイダヤモ)ド、ロウワン、ムイス地點)へはトボリスク及びオムスクより

北洋航路中央監理局の特別船舶にて約三十晝夜(距離約三、〇〇〇軒)。テュメニよりトボリスク迄貨物は國營汽船

部船舶にて定期に輸送されてゐる。

(三) タゾフスキイ區へは北洋航路中央管理局船舶にてトボリスク及びオムツクよりヤンブルグ迄(イルトイシ

オビ、オビ灣、タゾフスカヤ灣)距離約三二〇〇軒、航行日數約三〇——三五晝夜。ヤンブルグより貨物は發動機

船にてハリメルセデ(約二〇〇軒)へ運搬さる。ハリメルセデより貨物貨物は分類後、發動機船にてターズ、メツツ

及びプール河傳ひに距離九〇〇軒の商業地點へ配送される。これが所要日數一〇——二〇晝夜(ツェルコウエンカ

商品倉庫迄八〇〇軒、チェセルカー、〇〇〇軒)。トボリスクより汽船は六月初め出帆する。

(四) オブドルスク(サレ・ハルド)より貨物は發動機船及び汽船にて次の如く輸送さる。

(イ) プリウラリスキイ區(シチュチャ、ボルイ等諸川傳ひに)距離四〇〇——五〇〇軒へは所要日數約

十五晝夜。

(ロ) ヤマリスキイ區(オビ、ハド、イタ、ビヤト、イ・ユン諸河傳ひに)距離五〇〇軒へは所要日數十二晝夜。

(ハ) ナド、インスキイ區(オビ、ガドム、その支流へ至る)距離六〇〇軒へは所要日數十五晝夜。

この外、オビ灣北方沿岸の諸商業地點へはカルスカヤ探險隊の諸汽船によつて貨物輸送が行はれてゐる。オビ河

の航行は平均六月五日(オブドルスク區に於て)、トーラ河(テュメニに於て)は、平均四月二十五日に開始される。

船舶の航行は十月下旬に終了さる。國營船舶部のオブドルスク向貨物の義務的受付はカラトツンカに於ては九月五

日、オムスクに於ては九月五日、テュメニに於ては九月五日を以つて中止さる。

奥地向貨物輸送路となつてゐるトーラ及びタウダ河並に北方河川の特徴は、冬期水量が減ずること、随つて

これら諸河川に依る貨物の輸送を春の出水と同時に必要性が唱へられる。六月中頃からトーラ及びタウダ諸

河に六〇センチメートル迄の砂洲が形成さるゝため、吃水深き汽船の航行は中止され、荷船は標準積載量二五%の

貨物を運搬し得るに過ぎず、これら荷船の曳行のためには吃水浅き汽船を必要とするが、かゝる汽船の數は極めて

制限され居る状態にある。

オステヤコウグリスキイ管區

(一) テュメニよりカラトシカへの貨物は次の如く輸送さる。

(イ) テュメニより約一〇〇〇軒のサマロウ(管區中心)を経てサマルスキイ、スルダトスキイ及びラリヤークスキイ諸區(サマロウより九〇〇〇軒迄)へ至る。

(ロ) レボロウ(テュメニより約九〇〇軒)を経てコンディンスキイ區(八〇〇軒迄)へ至る。

(ハ) ベリョゾフ(約一五〇〇軒)を経てシュルイシカルスキイ(三五〇軒迄)及びベリョゾフスキイ(二〇〇〇軒迄)へ至る。

(ニ) クロムジノより貨物はイルトシ及びオビ傳ひに管内全區へ至る。サマロウ迄約一四〇〇軒、そしてベリョゾウ迄二〇〇〇軒。仕向驛より奥地諸地點迄の荷船及び發動機船に依る貨物走行日数は十五乃至五〇日間を要する。但し發動機船の利用は隻數少きため註文通り行かぬ場合がある。オビ及びベリョゾフの航行は五月下旬に開始され、サマロウに於ては約五月十五日頃である。ベリョゾフの船舶航行終了は十月十日、サマロウは十月二十日である。國營船舶部のサマロウ及び管内の其他地點向貨物の義務的受付はカラトシカ九月十日、テュメニ九月五日、オムスク九月十五日に中止さる。

發動機船連絡の諸河川はトラ及びタウダ河の如く、夏期水量を減じ浅くなる。クロムジノ(オムスク附近)經由貨物 輸送は鐵道及び水運費よりもやゝ高價に當る。

ネネツキイ民族管區

(一) 鐵道驛「アルハンゲリスク」(貨物走行距離は工業地より一〇—二〇晝夜)貨物分類——平均二十五日間。

(二) アルハンゲリスクより貨物は海路(平均六月二十日開始さる)にて次の如く(汽船及び部分的には短艇にて)輸送さる。

(イ) カニノ・ティマンスキイ區——オマ・ウジアス、ベシア——の諸地點へは九月中頃迄。インディカへは十一月迄であるが、十一月になつても可能な年がある。區内の他の地點へは九月末迄。

(ロ) ニジネ・ベチョールスキイ區——ナリヤン・マル迄汽船にてナリヤン・マルより區内商業地點迄は六月一〇—一五日乃至十月五——一〇日間短艇及び河蒸汽船を、十二月乃至四月間車馬を用ふ。

(ハ) ポリシ・ゼメリスキイ區——(一)該區の貨物の約一〇%は直接アルハンゲリスクより汽船にて商業地點、即ちハバロウ(ユゴルスキイ・シヤール)及びカルスカヤ灣(カラ河河口)へ輸送さる。残りの九〇%は貨物配送所へ輸送される(三)ナリヤン・マル——輸送期間は平均十月上旬半期である。アルハンゲリスクよりナリヤン・マル迄——日數約十日間(陸揚共)。

備考(一) ポリシ・ゼメリスキイ區の貨物はナリヤン・マルより左の經路にて區内へ輸送さる。

(イ) 三〇%は七月—九月間海路短艇にて沿岸商業地點(ワレンデイ、チョルナヤ等)へ運搬さる。

一〇 北地向食糧品貨物の搬入經路及條件の概要

(ロ) 六〇%はベチヨール及びウサ河傳ひに川蒸汽船及び荷船にて貨物配送所即ちウスチ・ウサ、コルワ、アジワ(アジワウム)河口及びロゴツヤ(ペトルニ)河口まで輸送され、これらの配送所より貨物は大型舟(カユーク荷物船、シニャーク帆船)を曳行(人力及び馬力にて)しつゝウサ河右支流のトツンドラ地帯商業地帯まで運搬されるのである。

ベチヨール及びウサ河航行期間は六月十日—十五日乃至十月間であるが、ウサ河の貨物輸送は殆んそ毎年七月—八月(約一ヶ月半)間水量少きため不可能若くは極めて困難事とされてゐる。

ウサ河及びその支流は六月十日頃解氷し、ウサ支流傳ひにツンドラ地帯商業地帯までの輸送は辛じて舟によつてのみ、而も春、解氷後(七月後半期)一六—二〇日間に限り可能である。それ故に貨物はたゞ航行初めにアルハンゲリスタは元よりナリヤン・マルから發送されたとしても、ウサ河傳ひに配送所へ着くにはその支流に於ける水量の減少後になる。随つて豊年の解氷期までその地に留められるのである(ナリヤン・マルからウサ河配送所まで八日乃至十五日間、ウサ河からツンドラ地帯商業地帯迄五日乃至十五日間)。冬期は輕量の貨物のみ輸送される。

備考(2) 時期遅れの貨物を十一月インディガ經由にてニジネ・ベチヨールスキイ區へ試験輸送せるところ(海路にてインディガ迄インディガより馴鹿或は一部分馬蹄にて)馴鹿及び馬蹄輸送の不備のため比較的輕量の貨物數點に限り輸送し得ることが判明した。

備考(3) 冬期アルペンゲリスタよりの車馬輸送は輕量の貨物に限りしかも例外の場合に於てのみ可能である。

コシ州

(トロイツ・ベチヨールスキイ、ウスチ・ウシンスキイ、イジニムスキイ、ウスチ・ツイレムスキイ及びウドルスキイ諸區)

(一) 仕向驛『アルハンゲリスタ』、貨物走行平均日数は工業地より一〇—一五晝夜。

(二) アルハンゲリスタより貨物は海路にて次の如く輸送さる。(イ)トロイツエ・ベチヨールスキイ、ウスチ・ウシンスキイ、イジニムスキイ及びウスチ・ツイレムスキイ諸區のためにベチヨールスキイ港へ及び(ロ)ウドルスキイ區のためにメゼニへ。

(三) 貨物はベチヨールスキイ港より汽船にてベチヨールを越行しウスチ・ツイレムスキイ區(二五〇—四〇〇軒)イジニムスキイ(五〇〇乃至七〇〇軒)ウスチ・ウシンスキイ(六〇〇乃至八〇〇軒)トロイツエ・ベチヨールスキイ(一一〇〇乃至一四一五軒)へ輸送さる。

(四) メゼニより發動機船にてメゼニ河傳ひに距離三五〇—五〇〇軒のウドルスキイ區へ輸送さる。

(五) ベチヨールスキイ港への航海開始は平均六月二十日、終航十月二十日とさる。メゼニ河口への海上輸送は五月十五日—二十日乃至十月十日—十五日間に行はれる。

(六) ベチヨール河航行は六月十日頃(河口)開始され、十月十日—二十日終了さる。メゼニ河航行開始は五月中旬、終航十月十五日—二十日。

アルハンゲリスタに於ける貨物分類及び荷役並に港内に於ける積替へに平均二十日—二十五日間を要する。
國營船舶部のベチヨル(下流河區)輸送貨物の義務的受付けは九月二十日、メゼニ河輸送貨物は九月十五日中午止。

メゼンスキイ及びレシノフスキイ區

- (一) 仕向驛「アルハンゲリスタ」貨物走行は中央地方より一〇—一五晝夜を要する。
- (二) 貨物はアルハンゲリスタより汽船にて海路メゼニ(一七五〇軒)に輸送され、其處より發動機船及び汽船にて區の商業地點へ配達さる。國營船舶部のメゼニ向輸送貨物の義務的受付けは九月十五日中午止さる。
- (三) メゼニ河口への海上輸送は五月十五日—二十日乃至十月十日—十五日間行はれる。
- メゼニ河支流傳ひにウシカ河河口上流(レシノフスキイ區)への貨物輸送は水量多き時にのみ可能である。
- (四) 中央地方よりメゼンスキイ區の中心地迄の貨物走行は三八晝夜、レシノフスキイ區中心地迄—四三晝夜を要する。

ムルマンスキイ管區

- (一) テルススキイ區—貨物は鐵道にて南京よりムルマンスキイ鐵道カンダクシヤ驛迄輸送され、其處より汽船及び小船船にて區の全村落へ輸送さる。貨物は航海期間中に配達され、そして何等かの理由で海路にて輸送されなかつたものゝみは車馬にてウムバ村(一二〇軒)まで運搬さる。航海期間は六月乃至十月間である。

- (二) ロウゼルススキイ區。區向貨物はムルマンスキイ鐵道ブルゼロ驛まで輸送され、其處より車馬にてロウゼルス迄(九二軒)運搬さる。ロウゼルスより貨物は區内の他の村落迄馴鹿にて配達される。區向貨物輸送は十二月—四月(四月は運搬のためには最も困難な月である)間に行はれる。

- (三) ボノイスキイ區。鐵道にてムルマンスタ迄。ムルマンスタより汽船にてボノイ及びイオカンガ迄。イオカンガよりは四季を通じて行はれる。貨物は普通ボノイよりイオカンガ迄夏秋航行期に輸送され、各村落へは冬期通路によつて配達さる。

- (四) コリスコ・ロバルスキイ區。南方より北方へかけて區内を鐵道線路が横斷してゐる。貨物は如何なる驛にても積載するこゝが出来る。輸送は四季を通じて行はる。

- (五) ボリヤールスキイ及びテリベルスキイ區。配給は水陸兩路輸送によつて行はる。ムルマンスタ迄は鐵道により、それから先は水路による。

レニングラードよりムルマンスタ迄の標準貨物走行日数は、大速力にて六日間、普通にて十五日間を要する。プロゼル及びカンダクシヤ迄はそれよりも一—三日早い。

海路による貨物走行日数は、テルスキイ區(及びムルマンスキイ沿岸)迄—二日乃至十日間を要する。それは一つに交通機關、天候状態及び荷役進捗程度に依存するのである。

二二二

ブリット蒙古共和国……………

全 聯 合 協 同 組 合
聯 邦 毛 皮 業 合 同

一、三〇

一、七五〇

三、〇〇〇

一、二五〇

二、四二七

三、七六六

一、三二七

一、八八〇

三、一五〇

Faint, illegible text on the right page, possibly bleed-through from the reverse side.

一九三三—一九三五年度勞賃協定を結べる住民員數

(ソ聯邦配給人民委員部資料に據る)

號番序順	地 方 名	關 係 團 體	一九三三—三四年年度採録			一九三四—三五年年度		
			勞働者及 他者	其他	合計	現 地 申 告 勞働者及 他者	其他	合計
一	ムルマンスキイ管區	消費組合	五,八〇〇	三,〇〇〇	八,八〇〇	四,七三三	三,三〇〇	八,〇三三
二	アルハンゲリスキイ北部	消費組合	四,五〇〇	九,〇〇〇	一三,五〇〇	三,七五〇	一四,七五〇	八,五〇〇
三	コミ州	消費組合	六,五〇〇	三,五〇〇	一〇,〇〇〇	六,三九二	四,一〇三	一〇,四九五
四	ネネツキイ管區	消費組合	四,〇〇〇	四,五〇〇	八,五〇〇	六,〇八九	四,一八五	一〇,二七四
五	メゼニ水運労働者	水運労働組合	七,〇〇〇	六,〇〇〇	一三,〇〇〇	六,〇〇〇	一,〇〇〇	七,〇〇〇
六	ベチ、ール水運労働者	水運労働組合	七,〇〇〇	六,〇〇〇	一三,〇〇〇	五,〇〇〇	一,〇〇〇	六,〇〇〇
七	ヤマリスキイ管區	消費組合	三,三〇〇	六,八〇〇	一〇,一〇〇	三,四七六	五,一三三	八,六一九
八	オステヤコ・ウダグリスキイ管區	消費組合	四,四〇〇	六,三〇〇	一〇,七〇〇	五,四三三	三,三三三	八,七六六
九	農業開發部	消費組合	八,三六六	一五,四八八	二三,八五四	二〇,三六一	二六,五七五	四六,八八六
一〇	オビ漁夫食糧品配給トラスト	消費組合	三,三〇〇	六,〇〇〇	九,三〇〇	二,一七九	七,九一	九,一〇〇
一一	カールスカヤ探險隊	水運人民委員部	二,一五五	二,七〇〇	四,八五五	三,九八六	一,六八六	五,六七二
一二	ウラリスカヤ州 合計	消費組合	三,〇〇〇	四,〇〇〇	七,〇〇〇	三,〇〇〇	四,〇〇〇	七,〇〇〇
一三	ナルイムスキイ地方	消費組合	四,五〇〇	一〇,〇〇〇	一四,五〇〇	三,三六四	一七,九四四	二一,三〇八
一四	ナルイムスキイ地方西部シベリヤ漁業トラスト	消費組合	三,五〇〇	五,五〇〇	九,〇〇〇	二,四三三	三,九五五	六,三八八
一五	エウ・ンキースキイ管區	消費組合	二,〇〇〇	三,〇〇〇	五,〇〇〇	一,〇〇〇	二,〇〇〇	三,〇〇〇
一六	トルハンスキイ管區	消費組合	一,〇〇〇	二,〇〇〇	三,〇〇〇	五〇〇	一,〇〇〇	一,五〇〇
一七	イガルスキイ管區	消費組合	一,〇〇〇	二,〇〇〇	三,〇〇〇	二〇〇	四〇〇	六〇〇
一八	イガルカ市	消費組合	一,〇〇〇	二,〇〇〇	三,〇〇〇	二〇〇	四〇〇	六〇〇
一九	ウイティモ・オレクミンスキイ管區	消費組合	一,〇〇〇	二,〇〇〇	三,〇〇〇	二〇〇	四〇〇	六〇〇
二〇	カタシグスキイ管區	消費組合	一,〇〇〇	二,〇〇〇	三,〇〇〇	二〇〇	四〇〇	六〇〇
二一	カールスカヤ探險隊	水運人民委員部	一,〇〇〇	二,〇〇〇	三,〇〇〇	二〇〇	四〇〇	六〇〇
二二	東部シベリヤ地方 合計	消費組合	四,五〇〇	七,〇〇〇	一一,五〇〇	八,一七六	一〇,〇〇〇	一八,一七六
二三	ブリヤート蒙古共和國	消費組合	一,五〇〇	三,〇〇〇	四,五〇〇	一,二〇〇	二,四〇〇	三,六〇〇
二四	東部シベリヤ漁業トラスト	消費組合	一,〇〇〇	二,〇〇〇	三,〇〇〇	二〇〇	四〇〇	六〇〇
二五	ブリヤート蒙古共和國合計	消費組合	二,五〇〇	五,〇〇〇	七,五〇〇	一,四〇〇	二,八〇〇	四,二〇〇
二六	ヤクーツ共和国	消費組合	一,〇〇〇	二,〇〇〇	三,〇〇〇	二〇〇	四〇〇	六〇〇
二七	ヤクーツ共和国合計	消費組合	一,〇〇〇	二,〇〇〇	三,〇〇〇	二〇〇	四〇〇	六〇〇
二八	極東地方(大陸)	消費組合	一,〇〇〇	二,〇〇〇	三,〇〇〇	二〇〇	四〇〇	六〇〇
極東地方合計		消費組合	一,〇〇〇	二,〇〇〇	三,〇〇〇	二〇〇	四〇〇	六〇〇

譯文
ソ聯極東及外蒙調査資料既近刊目錄

第一編	ソ聯極東地方要覽	同	二六二頁
第二編	ソ聯極東の運輸交通問題	同	二三八頁
第三編	モスコウ—イルクツク航空路の氣象	同	一八一頁
第四編	南ザバイカルの地形と土壤(上卷)	同	三四一頁
第四編	南ザバイカルの地形と土壤(下卷)	同	二四七頁
第五編	シベリア經濟地理(上卷)	同	二六五頁
第五編	シベリア經濟地理(下卷)	同	二九六頁
第六編	蘇城・オリガ聯合企業	同	三三二頁
第七編	ソ聯極東地方の自然地理及礦物資源に關する新資料	同	三一頁
第八編	東部シベリアの自然地理及礦物資源に關する新資料	同	二一八頁
第九編	ソ聯極東及東部シベリアの自然資源と其利用に關する新資料(上卷)	同	二〇七頁
第九編	ソ聯極東及東部シベリアの自然資源と其利用に關する新資料(下卷)	同	二八二頁
第十編	ビロビヂャン(猶太人自治州)要覽	同	一一〇頁

譯文翻譯ソ聯極東及外蒙調査資料既近刊目錄

露文翻譯ソ聯極東及外蒙調査資料既刊目録

第十一編	ブリヤート蒙古自治共和國現勢	同	菊判	三〇三頁
第十二編	外蒙調査資料 第一輯	同	同	二〇二頁
第十二編	外蒙調査資料 第二輯	同	同	一八四頁
第十三編	ソ聯極東地方人種誌	同	同	二五〇頁
第十四編	永久凍土層の研究	同	同	一一一頁
第十五編	東部シベリア地方經濟要覽	同	同	三五三頁
第十六編	外蒙古の食肉資源	同	同	九九頁
第十七編	東部シベリア地方の有色金屬礦床	同	同	一五一頁
第十八編	外蒙古地誌(上卷)	同	同	二六四頁
第十八編	外蒙古地誌(下卷)	同	同	一七二頁
第十九編	新疆よりゴビ沙漠を横ぎる	同	同	一一四頁
第二十編	シベリアの炭田	同	同	二五八頁
第二十一編	北地航空路の研究(上卷)	同	同	二一九頁
第二十一編	北地航空路の研究(下卷)	同	同	二六四頁
第二十二編	ソ聯極東の森林	同	同	四一三頁
第二十三編	西部蒙古族及び滿洲族(上卷)	同	同	三四一頁
第二十三編	西部蒙古族及び滿洲族(下卷)	同	同	二六〇頁

二

第二十四編	アムグン・ブレヤ 四河河孟調査資料 第一輯	同	菊判	一四六頁
第二十四編	ウダ・セレムジヤ 四河河孟調査資料 第二輯	同	同	二〇六頁
第二十四編	アムグン・ブレヤ 四河河孟調査資料 第三輯	同	同	一四八頁
第二十四編	ウダ・セレムジヤ 四河河孟調査資料 第四輯	同	同	一四〇頁
第二十四編	アムグン・ブレヤ 四河河孟調査資料 第五輯	同	同	一二八頁
第二十五編	アムル・ヤクツクの水と滲出水	同	同	二五〇頁
第二十五編附録	一九二七—二八年冬季に於ける アムル・ヤクツク幹線道路の水と滲出水圖面集	同	同	四六倍判 三六頁
第二十六編	全蘇聯鐵道輸送統計	同	菊判	一六七頁
第二十七編	ソ聯極東の水産及畜産	同	同	二六七頁
第二十八編	カザクスタン諸州概観	同	同	一一九頁
第二十九編	南ヤクティヤ部 氣候・地形・土壤・植物誌	同	同	二四六頁
第三十編	全ソ聯鐵道貨物移動統計	同	同	二二二頁
第三十一編	東部シベリア地方自然地理概観	同	同	二七〇頁
第三十二編	ソ聯極東地域に於ける新建築材料	同	同	一一六頁

露文翻譯ソ聯極東及外蒙調査資料既刊目録

三

露文翻譯ソ聯極東及外蒙調査資料既刊目録

第三十三編	ソ聯極東の産金地(上卷)	同	菊判	二八七頁
第三十三編	ソ聯極東の産金地(下卷)	同	菊判	三三二頁
第三十四編	ソ領亞細亞動力資源調査書 第一輯	同	近刊	
第三十四編	ソ領亞細亞動力資源調査書 第二輯	同	菊判	二八八頁
第三十四編	ソ領亞細亞動力資源調査書 第三輯	同	同	二三五頁
第三十四編	ソ領亞細亞動力資源調査書 第四輯	同	同	二〇〇頁
第三十四編	ソ領亞細亞動力資源調査書 第五輯	同	同	三二四頁
第三十五編	東部シベリアの人口問題	同	同	一一〇頁
第三十六編	カムチャトカ州要覽	同	近刊	
第三十七編	蘇領北地事情	同	同	二四三頁

四

昭和十一年十二月一日印刷
昭和十一年十二月五日發行

編譯文
ソ聯極東及外蒙調査資料 第卅七編

蘇領北地事情

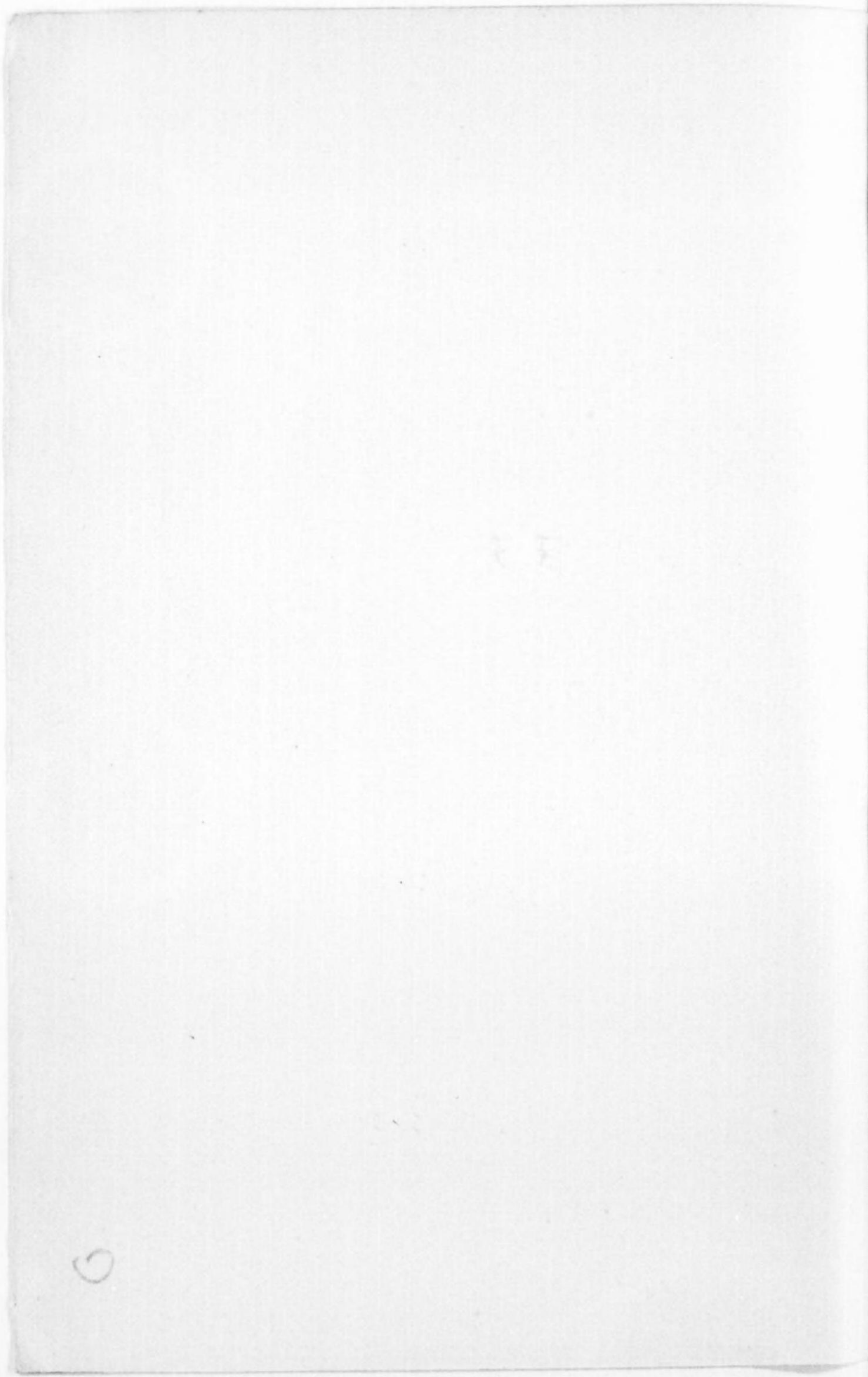
大連市伏見町一四番地
發行人 中島宗一

大連市近江町九一番地
印刷人 山田浩通

大連市近江町九一番地
印刷所 東亞印刷株式會社

大連市東公園町三〇番地

發行所 南滿洲鐵道株式會社



終

